

平成 26 年度 横浜市鶴見区生活支援センター 事業報告書

平成26年度は、開所から2年かけ構築してきたネットワークの強化及び、第2期（3年目～4年目）計画の初年度であることを意識し運営してきた。これまでの運営状況を見直し、業務担当の再編及び各システムの見直しを図るとともに、当事者のみならず家族会との連携強化、地域ニーズ把握のためのアンケート調査などを実施した。また、年度途中には、開所当初からの職員が退職し欠員状態が続く中で、障害者雇用制度を活用し人員体制の安定を図った。その活用方法は、1名を内部受付業務に、新たに1名を雇用しクリーンスタッフとして配置し、本来業務に支障が出ないよう職員一丸となり、工夫しながらサービスの質を高めるよう努めた。また、人脈を活かし週1回勤務ではあるが、即戦力となるアルバイト職員2名を雇用した。

外部では、区内自立支援協議会における確固たる地位を構築し、区内の重要な会議や関係機関のケア会議への参加依頼も増加した。また、横浜市生活支援センター連絡会においても積極的な提案を行い、横浜市生活支援センターの人員配置や電話相談業務のあり方など仕組みの見直しにも大きく貢献した。

(ア) 生活支援センター本体事業

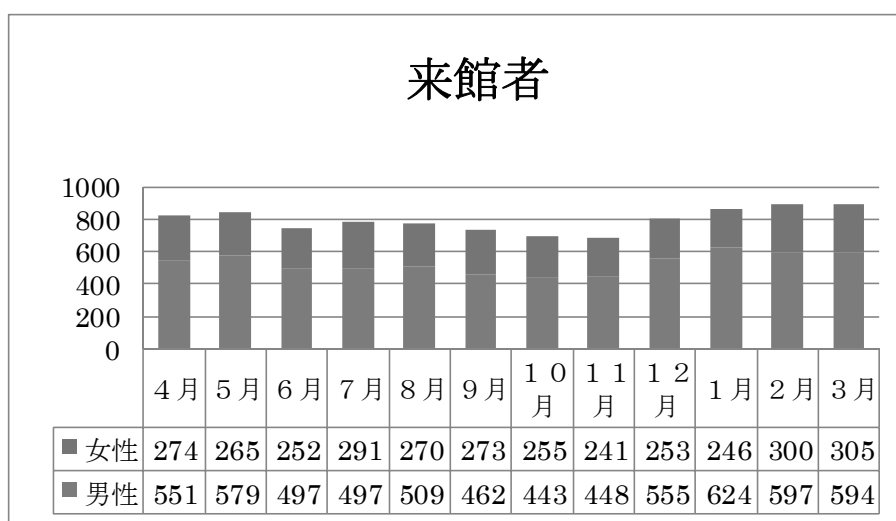
① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援

【利用登録者数】

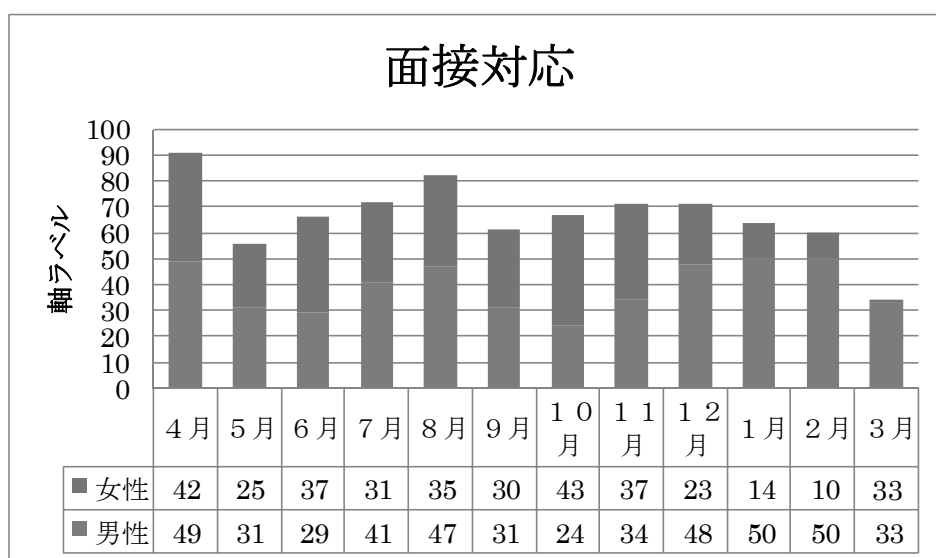
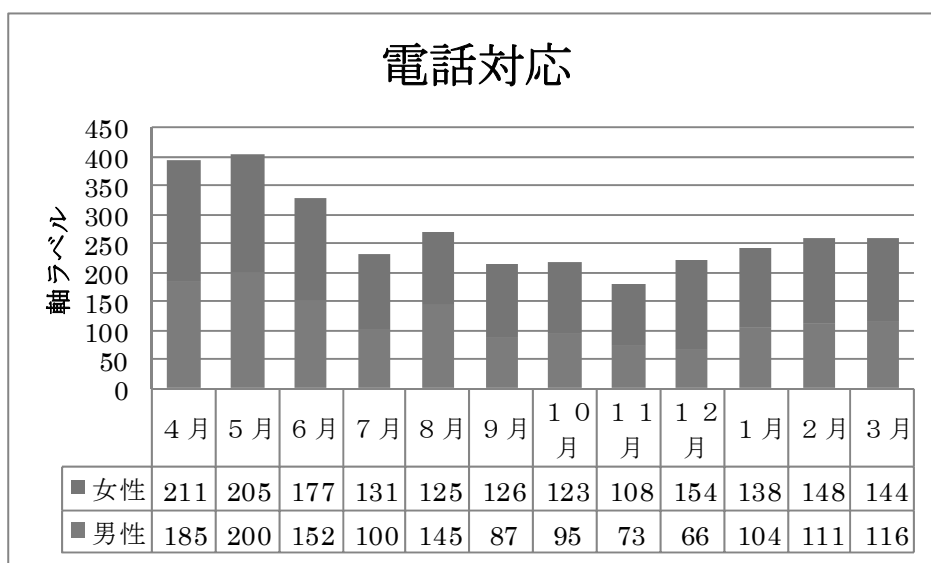
| 平成 26 年度 559 名 | 本人登録 | | 新規登録者数 | |
|-------------------|-------|-------|--------|------|
| | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| | 332 名 | 227 名 | 59 名 | 38 名 |

※平成 26 年 4 月に横浜市在住の方以外の登録抹消したため、昨年度よりも減少。

【来館者数】 平成 26 年度 合計 9581 名（男性 6356 名 女性 3225 名）



【援助方法別対応者数（本人のみ）】



| | | | | |
|-----------------------------------|--------|-------|---------------|-------|
| 平成 26 年度 全相談支援者数 6815 件（延べ） | 電話 | 面接 | フリースペース 対応 | 訪問・同行 |
| | 4340 件 | 983 件 | 895 件 | 503 件 |

電話相談に関しては、欠員状態及び外出支援が増えてくる中で、センター内職員数の体制確保が困難となり、相談電話回線数を2回線から1回線へ減少したため、受電本数減少。

その他の援助方法についても、アウトリーチ強化により減少傾向。人員体制を改善し、機能的な業務分担が次年度以降の課題である。

【有料サービス利用者数】

| 夕食利用 | | 入浴利用 | | 洗濯利用 | | パソコン利用 | |
|--------------|------|-------------|-----|-------------|-----|-------------|----|
| 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 4507 | 1932 | 518 | 136 | 411 | 428 | 220 | 25 |
| 合計 6439 名(延) | | 合計 654 名(延) | | 合計 839 名(延) | | 合計 245 名(延) | |

横浜市生活支援センターが、全区に整備されたことにより、他区在住利用者が整理されてきた印象を受ける。有料サービス利用者は、鶴見区生活支援センターの常時利用者と比例しており、利用者数及び利用回数も安定してきている。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供

【自主事業】

| 自主事業 | 回数 | 人数 |
|-----------------|-----|------|
| ライブイベント | 13 | 215 |
| たこ焼きパーティー | 4 | 60 |
| スポーツイベント | 5 | 40 |
| 女子会クレア | 13 | 77 |
| 男子会 | 7 | 40 |
| 卓球&ゲーム | 2 | 19 |
| トルティーヤ!昼食会 | 1 | 16 |
| お花見 | 1 | 15 |
| つるみんぴっく(他機関合同) | 1 | 7 |
| 就労お茶会 | 2 | 29 |
| 所長と話す会 | 2 | 8 |
| 夏祭り | 1 | 75 |
| 利用者交流会 | 1 | 10 |
| クリスマス企画会議 | 8 | 46 |
| クリスマスイベント | 1 | 28 |
| ウォーキング(三ツ池・総持寺) | 2 | 24 |
| 茶道体験 | 2 | 26 |
| チョコレートフォンデュ | 1 | 11 |
| なごやかサロン(餅つき) | 1 | 32 |
| あみもの教室 | 2 | 13 |
| メイクアップ | 2 | 35 |
| 合計 | 72回 | 835名 |

【地域交流支援事業】

| 地域支援事業 | 回数 | 人数 |
|------------------|----|----|
| WRAP | 1 | 24 |
| 親亡き後の生活 | 1 | 28 |
| 思春期の子ども達を理解するために | 1 | 17 |
| 合計 | 3 | 69 |

自主事業・地域支援事業共に、『利用者の生活に潤いを』モットーにという方針は変わらずに、関係機関と連携して実施した。特に家族会との連携強化を意識して取り組んできた。地域支援事業については、年3回の枠しかない中で、家族会と打ち合わせを重ね、合同開催という形で実施した。合同開催という形で実施することで、家族会との連携は強化され、「次年度も一緒に活動させて欲しい」という言葉を頂いている。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援

先にも述べたように、家族会との関係性は深まっている。鶴見区家族会のぞみの役員会に毎月参加をする中で、家族会への地域福祉サービス認識度調査の話もすることができ、実際にアンケート集計にご協力頂いた。また、普及啓発活動の継続により、家族のみが相談に来る場合も増えている。今後も、本人・家族の相互作用を意識し、専門家と当事者・家族の互惠関係が深まるよう努めていきたい。

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク構築

鶴見区自立支援協議会の3つの部会（権利擁護部会・生活支援部会・計画相談連絡会）に1名ずつ職員を派遣。また、地域ケアプラザ主催の地域ケア会議への積極的な参加、インフォーマルなネットワーク（うみやま会）づくりなど実施した。次年度は、正式に鶴見区自立支援協議会の事務局への参画を求めらており、ネットワーク構築への努力が実を結んでいる。

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

昨年度に引き続き、女子会クリア及び男子会を継続的に実施。利用者主導の自主サークル活動も形になってきている。今後は、来所困難な方々に対しての支援方法などについても、センター利用者の方々の意見を聴く機会を設け、よりピア活動に繋がるような支援を実践していきたい。

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

【事故報告】全6件

| 発生日時 | 場所 | 事故の種類 | 処理の経過及び再発防止対策等 |
|---------------|-----------|-------|--|
| 6月9日 01:50 | エレベーターホール | その他 | 機械警備開始(施錠)忘れ |
| 8月15日 19:00頃 | 受付 | その他 | 夕食サービス申込者記入漏れにより配食数不足 |
| 10月5日 08:35頃 | エレベーターホール | その他 | 機械警備解除し忘れ |
| 10月11日 12:00 | 食堂 | 物損事故 | ホットプレートの中に入っていた紙に気付かずスイッチを入れてしまい、紙が焦げ煙が上がる |
| 11月12日 08:30頃 | エレベーターホール | その他 | 機械警備解除し忘れ |
| 11月12日 20:00頃 | 受付 | その他 | 領収書の日付印を、前日の日付で押印 |

【ヒヤリハット】全16件

◆夕食サービス

| ヒヤリハット内容 | 対処方法・再発防止策 |
|---------------------------|--------------|
| 配食数不足 | 職員用の夕食分を提供 |
| 夕食購入費をセンターに忘れて買い物に出してしまう。 | 買い物職員で立て替え |
| 夕食予約者の受付表記入漏れ（計7件） | マニュアル再確認 |
| 魚を注文し、受け取り後に数不足発覚 | 購入時に確認を徹底 |
| 献立にあった料理の提供忘れ | 最終確認の徹底 |
| 調理時に内部温度計が故障で使用できずに提供 | 報告・相談・連絡の徹底 |
| 注文していない利用者に夕食提供 | 提供時の確認徹底 |
| 米の炊き上がりが固い（計2件） | 季節による水加減の見直し |

◆事務室

| | |
|-----------|---------------------------|
| 出納簿の打ち間違い | ダブルチェックをしているからこそ、すぐに判明した。 |
|-----------|---------------------------|

事故事例・ヒヤリハット事例について、発生率は、昨年度よりも約 50%減少。これは、これまでどんなに些細なことでも報告をあげ、確認しあってきた成果であるといえる。しかし、新しく入った非常勤職員やアルバイト職員への導入時での綿密な指導があれば防ぐことができた案件もあり、引き継ぎ方法が課題である。また、同様のミスも時折起きているため、再度マニュアルの見直しなどを行い意識向上し、再発しないよう徹底していく。

⑦ 会議等

| |
|------------------------|
| 内部会議及び研修→33回 延べ43名参加 |
| 外部会議及び研修→167回 延べ223名参加 |

会議及び研修においては、区内の会議を優先、日々の利用者支援や運営に繋がる研修を選択するなど、人員体制の面から利用者支援優先の意識を常に持ち、慎重に吟味して参加及び実施してきた。次年度以降の課題としては、センター主催の研修会の増加、内部会議をコンパクトに実施していきたい。そして、課題達成に向け、職員ミーティングでの具体的な検討を通して積極的に取り組んでいきたい。

⑧ 人材育成について

平成 24 年 4 月の開所から採用され、相談支援の仕事をはじめた職員が 3 年間のキャリアを積んだ。今年度は、それぞれに責任ある事業を任せることで大きく成長を遂げたのではないかとと思われる。さらなる成長を遂げさせるための課題としては、人員体制を安定させ指導職がコーチングできる機会を増やしていくことが考えられる。次年度は、業務効率向上を行いながらコミュニケーションの機会をさらに増やし人材育成に取り組んでいきたい。

⑨ 嘱託医相談 嘱託医 3名

| |
|------------------------------|
| 相談回数⇒33回 男性⇒6名 女性⇒10名 家族⇒12名 |
|------------------------------|

普段の診察時間は限りがあるため、嘱託医相談の時間は本人・家族にとって病気や薬の理解を深め、有意義なものとなっている。相談予約のなかった時間帯は、医療の立場からのスーパーバイズを職員が受け、資質向上に努めた。昨年度よりも家族会との連携を強化してきたこともあり、家族相談が増えた。

(イ) 自立生活アシスタント事業

今年度より主任アシスタントが変更となり、新体制で取り組んだ。3 年目を迎え、行政を始めとした地域の各関係機関への事業の周知が進んだことで依頼や相談件数が

さらに増え、新規登録の増加につながった。他職員の協力を得て、積極的に外に出ることに努め、訪問や同行支援の件数も増えた。

来年度の課題としては、センターで支援を抱え込まずに、積極的に関係機関と連携をとりながら進めていくことが挙げられる。また、支援に期限のある事業であることを意識し、既存の登録者のニーズの見直しや卒業を見据えた支援の方向性を打ち出していく必要がある。本当に支援を必要としている方に対して、適切に提供できるよう努めたい。

①対象者

| 本人 | 家族 | 関係機関 | その他 |
|--------|-----|------|-----|
| 1,434名 | 44名 | 104名 | 2名 |

②援助方法

| 面接(来所) | 電話・FAX・メール | 訪問 | 同行 | その他 |
|--------|------------|------|-----|-----|
| 366名 | 1,270名 | 232名 | 76名 | 59名 |

③支援内容

| 心理 情緒 | 医療 健康 | 消費 生活 | 就労 | 衣食 住 | 対人 | 制度 | アシスタント 所 属施設利用 | 関係機関 との連携 | 余暇 支援 |
|----------|----------|----------|-----|---------|------|-----|-------------------|--------------|----------|
| 271名 | 443名 | 235名 | 16名 | 561名 | 248名 | 96名 | 360名 | 72名 | 14名 |

※すべて延べ人数ではあるが、1人1日1集計

| |
|-------------------------------------|
| 支援者数⇒登録者数 23名(内 新規9名 卒業1名) 未登録者数 5名 |
|-------------------------------------|

(ウ) 横浜市地域移行・地域定着支援事業及び国給付地域以降・地域定着支援事業

概ね一年以上入院されている長期入院者を対象に地域移行・地域定着支援事業にて支援を展開し、その対象にならない方へは横浜市退院サポート事業にて支援を展開し

た。今年度は、区内の精神科病院である鶴見西井病院を中心に、隣接市にある栗田病院など全8つの病院と連携を図りながら退院調整及び地域生活のフォローを担当した。特に、鶴見西井病院においては、昨年度の倍以上の退院支援ケースの調整に協力することができ、さらには病院 PSW と密な関係を構築した結果、院内において職員向けの事業説明会や社会資源紹介などの活動を実施することができた。

本事業のもう一つの特徴である市内精神科病院への普及啓発活動においては、A型生活支援センター協働活動部会で協議を重ね、法改正を一つの機会として捉えた地域移行支援事業における研修会を実施。それを機に各地域で勉強会を実施するなどの効果があった。

次年度も更なるネットワークの充実を図り、個別ケースへ繋げていく必要がある。

① 対象者

| 精神科病院名 | 支援状況 | 帰来先 ※帰結した者のみ |
|--------|------|-----------------|
| 栗田病院 | 支援継続 | |
| 日吉病院 | 退院 | 自宅 |
| 鶴見西井病院 | 退院 | 単身 |
| 鶴見西井病院 | 支援継続 | |
| 鶴見西井病院 | 支援継続 | |
| 栗田病院 | 支援中止 | |
| 鶴見西井病院 | 退院 | 単身 |

② 援助方法

| 電話等調整 | 面接 | 住環境調整 | 外出支援 | ケア会議 |
|-------|-----|-------|------|------|
| 145回 | 20回 | 35回 | 115回 | 14回 |

③ 病院との協働活動

| No | 病院・対象機関名 | 実施日時 | 内容 | 参加者人数 | 共催センター |
|----|----------|--------|--------------------------------------|-------|-------------|
| 1 | 日吉病院 | 4月14日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院サポートの概要説明 | 13 | 港北区生活支援センター |
| 2 | 日吉病院 | 4月28日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：入院中の取り組み（事例発表） | 13 | 港北区生活支援センター |
| 3 | 日吉病院 | 5月12日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：生活訓練施設等の施設見学 | 13 | 港北区生活支援センター |
| 4 | 日吉病院 | 5月26日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：振り返り及びこれからについて | 12 | 港北区生活支援センター |
| 5 | 日吉病院 | 6月10日 | 対象：デイケア利用者 テーマ：利用できるサービスを知る | 20 | 港北区生活支援センター |
| 6 | 日吉病院 | 9月9日 | 対象：デイケア利用者 テーマ：就労支援について | 17 | 港北区生活支援センター |
| 7 | 日吉病院 | 9月17日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院サポートの概要説明 | 13 | 港北区生活支援センター |
| 8 | 日吉病院 | 9月30日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：社会資源の紹介 | 12 | 港北区生活支援センター |
| 9 | 日吉病院 | 10月14日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：グループホーム等の施設見学 | 13 | 港北区生活支援センター |
| 10 | 日吉病院 | 10月28日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：振り返り及びこれからについて | 11 | 港北区生活支援センター |

| | | | | | |
|----|------|-------|--------------------------------|----|---------------------|
| | | | | | — |
| 11 | 日吉病院 | 12月9日 | 対象：デイケア利用者 テーマ：利用できるサービスを知る | 18 | 港北区生活 支援センタ ー |
| 12 | 日吉病院 | 3月10日 | 対象：デイケア利用者 テーマ：就労支援について | 17 | 港北区生活 支援センタ ー |

(工) 計画相談支援事業

計画相談支援事業に関しては、相談支援専門員でなければならないという資格要件の関係上、専任で動ける職員を現状の体制では設定できずにいる。次年度は、この状況を早急に改善し、円滑に事業実施できるよう検討していく。他区が専任職員を配置する中で、鶴見区生活支援センターの状況としては、伸び悩んでしまったが、次年度まずは50件を目標に、機能向上させ実施していきたい。

※計画相談契約者数（地域移行支援含む）⇒26名

(オ) その他

① 苦情解決関連

センター内フリースペース利用において、他者への暴言・暴力が認められた為に登録解除の措置を取らざるを得なかった方が1名。その後は、関係性は定かではないが、インターネット上における利用者及び職員への誹謗中傷などあり複雑な思いをした1年であった。このことに関連した利用者からの苦情が2件あった以外は、苦情はなかった。しかし、この経験が苦情解決・トラブル解決において、加害者側への対応について考えさせられる機会となった。これまであえて曖昧にしていた利用登録解除基準を、どのようなことが暴言となるのかや頻度など明確な基準を設けて行く必要性を感じている。次年度は、専門家等にも意見を聞きながら、登録方法についても再検討していく。

② 横浜市生活支援センター連絡会における活動

昨年度に引き続き、横浜市生活支援センター連絡会の事務局を鶴見区生活支援センターで担い、所長が代表、主任Ⅱが事務局長を務めた。その中で、これまで行っていなかったセンター連絡会主催の研修会の開催提案や、横浜市生活支援センター運営に関する仕組みの見直しなど、リーダーシップを発揮し取り組んできた。現在

は、国の法改正もあり過渡期な状況が続いているため、次年度も引き続き横浜市生活支援センター全体のことにも目を向け、時代の流れに翻弄されることなく、より良い横浜市生活支援センターとして機能向上できるよう生活支援センター連絡会に協力していきたい。

③ 実習生受け入れ

| 養成校名 | 日数 | 実習生受入数 |
|---------------|------|--------|
| 横浜市病院協会看護専門学校 | 10日間 | 10名 |
| 日本福祉大学 | 16日間 | 1名 |
| 神奈川県立保健福祉大学 | 12日間 | 1名 |
| 法政大学 | 15日間 | 1名 |
| 田園調布学園大学 | 15日間 | 3名 |
| 計 | 68日間 | 16名 |

今年度の実習生受け入れにおいては、法人内で連携を行いセンター以外の当法人施設への見学や、他事業所からの依頼によりセンターでの1日体験実習等実施した。法人内連携により、当法人について知る機会を提供すると共に、学生においても1度の実習で形態の異なる施設を知ることができるため好評であった。また、近い将来における人材確保、ネットワーク構築の意識し、実習後もセンターでのイベント時に声かけをするなど連絡を取り合い、アフターフォローを通して関係性を継続している。

今年度は、試験的に3年目の職員にも実習指導を実施させた。学生に教えることで、自らの日々の実践を振り返る機会となり、専門職としての成長過程において重要なものとなった。次年度は、受入数を増やし実習指導の経験を4年目を迎える職員にさせる機会を設け、職員のさらなる成長に活用していきたい。

④ 第三者評価受審結果について

今年度、開所後初めての第三者評価を受審した。学識者、有資格者、当事者、家族それぞれの代表の方々と向き合い、当センターの運営について協議できたことは非常に有意義なものであった。その中で、運営全般において高い評価を頂けたことは、職員の励みとなった。今回、指摘されたこと評価されたことは真摯に受け止め、より一層努力を重ね今後の運営に反映していきたい。

平成26年度 鶴見区生活支援センター指定管理料収支決算書

【合算】

自平成26年 4月 1日

至平成27年 3月31日

(単位 円)

| 科目 | | 予算額 | 決算額 | 差 額 | 備 考 |
|---------------|---------------------------|------------|------------|---------------|-------------|
| I 収入の部 | | | | | |
| | 1 指定管理料 収入 | 64,930,000 | 64,863,000 | 67,000 | |
| A | 2 利用料収入(給付費) | | 563,938 | △ 563,938 | |
| | 3 地域相談支援及び計画相談支援に要した交通費収入 | | | 0 | |
| II 支出の部 | | | | | |
| 7 | 1 人件費 | 55,170,000 | 56,273,333 | △ 1,103,333 | 0 |
| | 常勤職員 | 30,477,000 | 30,645,362 | △ 168,362 | 常勤職員6名 |
| | 非常勤職員 | 12,440,000 | 8,094,253 | 4,345,747 | 常勤職員4名 |
| | アルバイト | 2,325,000 | 5,811,401 | △ 3,486,401 | アルバイト職員4名 |
| | 調理アルバイト | 2,305,000 | 2,530,888 | △ 225,888 | 調理アルバイト職員8名 |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 927,360 | 40,640 | 嘱託医賃金 |
| | 法定福利費 | 5,200,000 | 6,883,801 | △ 1,683,801 | 法定福利費 |
| | 退職金給与引当金 | 1,245,000 | 1,141,830 | 103,170 | 退職共済掛金 |
| | 福利厚生費 | 60,000 | 56,500 | 3,500 | ハマフレンド |
| 労務厚生費 | 150,000 | 181,938 | △ 31,938 | 職員検診、予防接種 | |
| | 2 施設管理費 | 5,460,000 | 4,479,792 | 980,208 | 0 |
| | 光熱水費 | 2,500,000 | 1,987,766 | 512,234 | 光熱水費 |
| | 庁舎管理費 | 2,820,000 | 2,451,136 | 368,864 | 保守料、業務委託等 |
| | 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 | 修繕積立金 |
| | 利用者負担金充当金 | △ 60,000 | △ 159,110 | 99,110 | 0 |
| | 3 運営費 | 3,862,000 | 3,165,038 | 937,915 | 0 |
| | 旅費 | 450,000 | 0 | 450,000 | 旅費交通費 |
| | 消耗品費 | 750,000 | 788,778 | △ 38,778 | 消耗品 |
| | 印刷製本費 | 110,000 | 72,598 | 37,402 | 名刺、センター便り |
| | 修繕費 | 300,000 | 14,287 | 285,713 | トイレ修繕 |
| 通信運搬費 | 590,000 | 737,563 | △ 147,563 | 電話代 | |
| 賃借料 | 712,000 | 386,718 | 325,282 | 車両・コピー機リース | |
| 備品等購入費 | 250,000 | 200,919 | 49,081 | 防災備蓄品 | |
| 保険料 | 200,000 | 184,662 | 15,338 | 施設総合保険 | |
| 雑費 | 500,000 | 538,560 | △ 38,560 | 教養娯楽、研修会、会議費等 | |
| 4 本部繰入金 | 371,000 | 371,000 | 0 | 0 | |
| 支出合計 | | 64,863,000 | 64,289,163 | 814,790 | |
| III 戻入精算 | | | | | |
| A 利用料収入合計の15% | | | | 84590.7 | |
| B 人件費戻入精算分 | | | | 0 | |
| 戻入合計 | | | | 84590.7 | |

平成27年度

事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

平成27年度は、指定管理事業を受託する際に掲げた事業計画の第2期（3年～4年）の最終年度であることを意識してセンター運営に取り組みました。これまで積み上げてきたネットワークをさらに強化することに重点を置きながら、昨年度に鶴見区家族会「のぞみ」の協力を得て実施したアンケート結果を基に普及啓発活動の強化に努めました。具体的には、地域主催のイベントに積極的に参加協力、町内会の会合の場でセンターの説明、地域を巻き込んだ研修企画等を実施しました。そして、地域に認識してもらうことにより本人、家族が感じている知られていない辛さ、互いに知らないがゆえに生まれる溝を少しでも解消できるよう働きかけを行いました。また、基幹相談支援センターとの連携については、浜家連・市精連・センター連の3団体で協議される会議に出席し、円滑なスタートに繋がるよう協議を重ねました。区内では、受託される法人及び区役所担当MSWと、元々のネットワークを活かして、2月頃より積極的に意見交換をしながら協力体制を確認していました。

これからも、開所から4年間かけて構築してきた関係性を軸に、本人、家族、関係機関にとって相談しやすい場として、横浜市生活支援センターの機能を発揮できるよう職員一丸となり努めていきます。

I. 生活支援センター本体事業

① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援（※別紙資料1参照）

利用登録者数は、111名増え680名。定期的に来所される利用者も増え、特に女性利用者の来所や新旧グループの適度な融合が見られました。それは、女性職員を中心に季節毎に、飾り等模様替えをし、障害者雇用しているクリーンスタッフが館内の清潔さも保ち続け、女性も過ごしやすい環境作りに努めてきた成果だと思われまます。また、休日や夜間等、建物の3階にある地域交流室を利用する団体や地域の子供達も来所するなど、地域の中に溶け込めるようになってきたと実感しています。その中で、地域主催の夏祭りに利用者の方々と参加し、センターでも催しを行い地域の子供達に来てもらうなど、さらに風通しが良くなるよう努めてきました。その結果、利用者の自己効力感の向上及び主体性の回復にも繋がっていると実感しております。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供（※別紙資料3参照）

初年度より実施している月1回のライブイベントや物づくり等の自主事業において、多数のボランティアの力を借り継続してきました。また、センター利用者と地域一般市民の交流機会として、夏祭りの開催やもちつき大会等、家族会の協力を得て地域住民と共に実施することができました。こうした活動により、地域の方々との繋がりを職員だけではなく利用者様も深めることができています。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援（※別紙資料2参照）

今年度も鶴見区家族会と協力をして、本人、家族、地域住民と一緒に学べる機会、交流する機会として「鶴見精神保健福祉講座」を年三回実施した。また、定期開催である「家族による家族相談会」の場所を提供。家族会と連携を深め、地域への普及啓発活動を行った。

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク

③にて述べた「鶴見精神保健福祉講座」や町内会の集まりに参加させて頂き、センターの説明をするなど、地域の中に出向き、積極的に普及啓発活動に取り組んだ。また、嘱託医の協力を得て、隔月に1度、地域関係機関の職員と共に事例検討会を開催し、顔の見える関係づくりと実践に活かせるネットワークの構築に努めた。また、自立支援協議会では、3つの部会に担当職員をそれぞれ1名ずつ付けることで、部会の中で行う事業に貢献をしました。また、自立支援協議会メンバーで計画相談支援連絡会を開催し、新規事業所とも意見交換や事例検討会を行いながら新たなネットワーク作りにも努めてきました。

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

これまでほとんど外出することが出来ない利用者の方数名に、ITサポーターとしてセンターのホームページの改善をしてもらったり、自主企画のサークル活動を職員が後方支援したりしながら開催したり、個々人のストレングスに焦点をあてて支援展開しました。その結果、定期的に外出できるようになったり、新たなグループが作られたりと、利用者の感想からも主体性の回復に繋がっていると実感しております。

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

ヒヤリハット 5件 事故報告 5件

ヒヤリハットは、有料サービス（主に夕食サービス）の記載漏れであり、人為的ミスが原因でした。人為的ミスに関しては、システムを職員間で再確認し合い再発防止に意識を高め合いました。

事故報告に関しては、セキュリティ解除忘れや領収書の日付の間違い、センター便りの地域への誤送付がありました。また、エレベーターホール前の壁を利用者に壊されるという事態がありましたが、ホール対応していたため気が付かなかったということがありました。安全管理に関しては、初年度より大小問わず報告書を出し、毎月職員間で共有してきました。その結果、意識を保つことに繋がっていると実感しています。今後も、些細な事でも共有し合い、事故防止に努めていきます。

⑦ 人材育成について

人材育成については、日々の引き継ぎや休館日の全体ミーティングの中でスーパーバイズを行い資質向上に努めてきました。また、同僚同士が互いの成長を促すことができるようピアスーパービジョンを意識して日々の業務に取り組みました。課題としては、スーパーバイズする職員が、外出頻度が高く細目に機会を設けることが出来ない点です。そうした状況については、職員間で話し合い、定期的なスーパービジョンを実施し、相談支援の専門家としての資質向上ができるよう改善していきます。

⑧ 嘱託医相談

相談回数⇒16回 男性⇒5名 女性⇒11名 家族⇒7名

| 嘱託医 | 所属 |
|----------|-------|
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |

嘱託医相談の時間は本人・家族にとって有意義な時間です。しかし、予約が入っていても当日来所が困難になるなど事前キャンセルも多く、有効活用されていない状況があります。キャンセルなどで空白になった時間帯は、嘱託医から医療モデルのスーパーバイズを職員が受け、資質向上に努めました。本来であれば、この貴重な相談機会が全て埋まることが望ましいと思われませんが、実際に相談に至ったのは、全体の相談回数の20%にも満たない状況です。そうした状況の中で、嘱託医の先生方からも医師相談が有効活用できるように協力を惜しまないと提案頂きました。今後は、地域への周知方法やホームページでの案内方法の改善などを先生方と検討しながら、有効活用されるよう工夫していきたいと思えます。

II. 自立生活アシスタント事業（※実績は、別紙資料2参照）

平成26年度より新体制となり、引き続き同じ体制で臨んだ2年目です。平成26年度の実績が評価され、依頼や相談件数がさらに増え、新規登録の増加に繋がりました。他職員の協力を得て、積極的に外に出ることに努め、訪問や同行支援の件数も増えました。また、事業本来の性質を意識し、自立生活アシスタント事業の課題として挙げられている『自立生活アシスタントからの卒業』では、8名の方の支援を終結し、新しい支援へとつなげることができました。その結果、本事業を必要とする新規契約者を受け入れることができ、概ね25名を維持しながら支援を継続してきました。また、マンパワーの問題により本事業として直ぐにサポートできない対象者に関しては、センター内の基本相談事業担当と連携し、支援できない状況を作らないよう調整しました。

III. 横浜市地域移行・地域定着支援事業及び国給付地域以降・地域定着支援事業

(※実績に関しては、別紙資料2参照)

年度途中に、担当者が産休に入り、8月から新体制で臨んだ。今年度も他区センターと連携をしながら、病院への普及啓発活動を実施しました。また、横浜市退院サポート研修部会に所属し、センター職員、病院PSWを巻き込んだ形での勉強会の開催に尽力しました。勉強会では、医療機関と退院支援に向けた連携を深めるため、顔の見える関係づくりからグループワークを通して、互いの意見交換もでき良い刺激になったと実感しております。年度末に担当職員の異動が決まり、改めて担当職員を再編しなければならない状況になりましたが、次年度も新体制ではありますがこれまでの他区センターとの連携を深め、適切な事業運営に尽力していきたいと思います。

IV. 計画相談支援事業

区内 38 件 区外 4 件

今年度は、鶴見区内に新規開所したグループホームがあり、他区の計画相談支援の新規依頼がありました。また、医療観察法対象者の方がグループホームへ入居するために、計画相談支援事業の依頼が横浜保護観察所からもありました。そうした中で、連絡調整が必要な関係機関も多岐に渡り、マンパワー不足が否めない状況となり、書類整理や提出書類の不備等が発生しました。そうしたこともあり、年度末に実務経験が5年経過しており、研修修了している者を相談支援専門員と登録し、人員体制を整理しました。区内では、毎月1回、「計画相談支援連絡会」を鶴見区障害担当MSWと区内相談支援事業所SWと開催してきました。内容は、事例検討をして資質向上に努めたり、情報共有等しながら連携を深めてきました。その中で、センターの指定特定相談支援事業所としての役割は、処遇困難ケースをメインに担当していく形になり、その他の新規ケースを新規相談支援事業所に依頼するといった形になっていきました。次年度も区内ネットワークを活かし、連携を深めながら対応をしていければと考えております。

V. その他

① 苦情解決関連

苦情に関しては、病状悪化した利用者の方からの混乱状況下での一方的な誹謗・中傷以外は、センター設備に対する要望などありました。それ以外では、センターに対して正式な形での苦情は出ておりません。今後は、今よりも日常の中で、出てくる利用者の声を受け止め、少しでも心地よく利用して頂けるよう努めていきます。

② 横浜市生活支援センター連絡会における活動

今年度の役員改選により、■■■■所長が副代表 ■■■■主任がセンター向上委員業務改善チームリーダーに就任。また、NPO 法人横浜市精神障害者家族連合会、NPO 法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会、横浜市生活支援センター連絡会の3団体による「センターあり方検討会」にも出席し、これまでのセンターの歩みを説明したり、会議の中で他団体と課題に対して協議を重ねました。また、基幹相談支援センターとの連携に関しても、円滑なスタートがなされるよう提案してきました。今後もより良い横浜市生活支援センターとして機能向上できるよう、生活支援センター連絡会に協力していきたい。

③ 実習生受け入れ

| 養成校名 | 日数 | 実習生受入数 |
|---------------|-------|--------|
| 横浜市病院協会看護専門学校 | 10日間 | 10名 |
| 日本福祉大学 | 48日間 | 3名 |
| 神奈川県立保健福祉大学 | 12日間 | 1名 |
| 法政大学 | 15日間 | 1名 |
| 田園調布学園大学 | 15日間 | 1名 |
| 日本福祉専門学校 | 16日間 | 1名 |
| 計 | 116日間 | 17名 |

今年度も、近い将来の仲間を増やすべく積極的に実習生を受け入れました。新規受け入れ校として、日本福祉専門学校が増えました。また、受け入れだけではなく養成校側で開催される実習報告会及び懇談会にも積極的に参加し、より実習指導が充実したものとなるよう、学校側と連携を深めました。

1. 平成27年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況 I

別紙資料1

開所日数

354日

| | | | | | |
|----------------------|-----------------|-------|--------|-------|-------|
| 登録者数 | 27年度登録 | 男性 | 57名 | 全体 | 111名 |
| | | 女性 | 54名 | | |
| | 全登録者数 | 男性 | 385名 | 全体 | 680名 |
| | | 女性 | 275名 | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 7493名 | 1日平均 | 21.2名 |
| | | 女性 | 3284名 | 1日平均 | 9.3名 |
| | 家族 | 全体 | 512名 | 1日平均 | 1.4名 |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 392名 | 1日平均 | 1.1名 |
| | 全体合計 | | 11681名 | 1日平均 | 33.0名 |
| 援助方法 | 電話 | 男性 | 2101件 | 全体 | 6143件 |
| | | 女性 | 4042件 | | |
| | 面接 | 男性 | 472件 | 全体 | 964件 |
| | | 女性 | 492件 | | |
| | フリースペース対応 | 男性 | 1433件 | 全体 | 2363件 |
| | | 女性 | 930件 | | |
| | 訪問・同行 | 男性 | 191件 | 全体 | 414件 |
| | | 女性 | 223件 | | |
| | その他 | 男性 | 111件 | 全体 | 244件 |
| | | 女性 | 133件 | | |
| 相談支援 内容内訳 | 精神的不安定 | 男性 | 239件 | 全体 | 649件 |
| | | 女性 | 410件 | | |
| | 生活(衣食住) | 男性 | 1402件 | 全体 | 3394件 |
| | | 女性 | 1992件 | | |
| | 金銭管理・経済 | 男性 | 229件 | 全体 | 563件 |
| | | 女性 | 334件 | | |
| | 就労 | 男性 | 308件 | 全体 | 503件 |
| | | 女性 | 195件 | | |
| | 家族関係 | 男性 | 209件 | 全体 | 937件 |
| | | 女性 | 728件 | | |
| | 対人関係 | 男性 | 409件 | 全体 | 1071件 |
| | | 女性 | 662件 | | |
| | 制度・サービス | 男性 | 220件 | 全体 | 549件 |
| | | 女性 | 329件 | | |
| | センター利用案内 | 男性 | 233件 | 全体 | 400件 |
| | | 女性 | 167件 | | |
| | 日中活動(余暇含む) | 男性 | 528件 | 全体 | 1028件 |
| | | 女性 | 500件 | | |
| | 希死念慮 | 男性 | 115件 | 全体 | 205件 |
| | | 女性 | 90件 | | |
| | その他 | 男性 | 369件 | 全体 | 906件 |
| | | 女性 | 537件 | | |
| | 緊急対応 | 男性 | 26件 | 全体 | 52件 |
| | | 女性 | 26件 | | |
| | 入院・退院支援 | 男性 | 72件 | 全体 | 109件 |
| | | 女性 | 37件 | | |
| | 複数対応 | 男性 | 14件 | 全体 | 25件 |
| | | 女性 | 11件 | | |
| ケア会議(内部・外部含む) | 男性 | 25件 | 全体 | 56件 | |
| | 女性 | 31件 | | | |
| 医療・健康 | 男性 | 664件 | 全体 | 1793件 | |
| | 女性 | 1129件 | | | |

2. 平成27年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況Ⅱ

① 有料サービス実施状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 | 前年度比 | 1日平均 | 実人数 | 全体実人数 |
|-------------|----|-------|--------|-------|-------|------|-------|
| 夕食 | 男性 | 4914人 | 6704人 | 4%増 | 13.4人 | 122人 | 196人 |
| | 女性 | 1790人 | | | 4.8人 | 74人 | |
| 入浴 | 男性 | 404人 | 658人 | 0.6%増 | 1.1人 | 28人 | 44人 |
| | 女性 | 254人 | | | 0.6人 | 16人 | |
| 洗濯 | 男性 | 344人 | 662人 | 21%減 | 0.9人 | 22人 | 32人 |
| | 女性 | 213人 | | | 0.5人 | 10人 | |
| インター ネット | 男性 | 147人 | 255人 | 4%増 | 0.4人 | 31人 | 42人 |
| | 女性 | 26人 | | | 0人 | 11人 | |

② その他活動

| | |
|------------------------------------|----|
| 当事者活動・自主活動支援 | 30 |
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 53 |
| 地域支援・ネットワーク(支援関係者向け) | 77 |
| 地域交流・啓発 | 4 |
| 家族支援 | 2 |
| 職員研修 | 32 |
| ボランティア支援 | 6 |
| 場所の提供 | 14 |
| 外部会議等 | 74 |

③ 鶴見精神保健福祉講座

| 第1回(学んでみよう認知行動療法) 講師: [] 先生 | 第2回 (見学会～NPO法人 一の会) | 第3回 (アウトリーチってどんな活動? ～暮らしを支える様々な訪問サービス～) |
|---------------------------------|------------------------|---|
| 48人 | 26人 | 36人 |

④ 自立生活アシスタント

| 対象者 | 本人 | 家族 | 関係機関 | その他 | | |
|------|--------|--------|--------|--------|---------|--|
| | 1,652人 | 53人 | 160人 | 4人 | | |
| 援助方法 | 面接 | 電話等 | 訪問 | 同行 | カンファレンス | |
| | 337人 | 1,073人 | 302人 | 93人 | 30人 | |
| 支援内容 | 心理情緒 | 医療健康 | 消費生活 | 就労 | 衣食住 | |
| | 93名 | 312名 | 234人 | 54人 | 731人 | |
| | 対人 | 制度 | アシ施設利用 | 関係機関連携 | 余暇支援 | |
| 329人 | 101人 | 319人 | 193人 | 66人 | | |

⑤ 地域移行支援事業

| 支援内容 | | 回数総合 | 地域移行分 |
|------|---------|------|-------|
| 援助方法 | 面接 | 31回 | 3回 |
| | 訪問 | 81回 | 40回 |
| | 同行 | 53回 | 9回 |
| | カンファレンス | 8回 | 1回 |
| | 電話 | 318回 | 81回 |
| 合計 | | 491人 | 134人 |

H27年度 自主事業

| | 回数 | 人数 |
|----------------|-----|-------|
| 男子会 | 9 | 13 |
| 女子会クレア | 9 | 41 |
| ライブイベント | 9 | 81 |
| 将棋イベント | 6 | 36 |
| 卓球&ゲーム大会 | 3 | 27 |
| 書道イベント | 3 | 24 |
| 茶道イベント | 3 | 41 |
| 精神保健福祉講座 | 3 | 110 |
| スポーツイベント | 3 | 17 |
| ソフトボール | 2 | 17 |
| たこ焼き・焼きそばパーティー | 2 | 31 |
| 編み物イベント | 2 | 16 |
| ウォーキングイベント | 1 | 8 |
| 開所3周年イベント | 1 | 50 |
| 七夕飾りつけイベント | 1 | 5 |
| 総持寺お祭りに行こう! | 1 | 11 |
| 夏祭り | 1 | 441 |
| かごバッグ作り | 1 | 5 |
| 土曜サロン | 1 | 22 |
| お茶会 | 1 | 11 |
| トルティーヤ | 1 | 12 |
| ジャグリング | 1 | 7 |
| ヨガ体験 | 1 | 9 |
| おしるこ食べよう! | 1 | 16 |
| 初詣イベント | 1 | 8 |
| メイクアップ体験 | 1 | 10 |
| ホットケーキ作り | 1 | 10 |
| 釘彫金 | 1 | 7 |
| トールペイント | 1 | 9 |
| クリスマスイベント | 1 | 34 |
| 餅つき | 1 | 30 |
| カナッペパーティー | 1 | 17 |
| 掃除イベント | 1 | 9 |
| 合計 | 75回 | 1185人 |

サークル活動

| | 回数 | 人数 |
|------------|----|-----|
| 手芸サークル | 4 | 8 |
| おりがみサークル | 1 | 5 |
| カードゲームサークル | 1 | 7 |
| 合計 | 6回 | 20人 |

平成27年度 鶴見区生活支援センター指定管理料収支決算書
(生活支援センター全体)

自平成27年 4月 1日 至平成28年 3月31日

(単位 円)

| 科目 | | 予算額 | 決算額 | 差 額 | 備 考 |
|------------------|-----------------------------------|------------|------------|-----------------|--------|
| I 収入の部 | | | | | |
| | 1 指定管理料 収入 | 64,930,000 | 64,930,000 | 0 | |
| A | 2 利用料収入(給付費) | 2,000,000 | 2,471,747 | △ 471,747 | |
| | 3 地域相談支援及び計画 相談支援に要した交通費収 入 | | | 0 | |
| 収入合計 | | 66,930,000 | 67,401,747 | △ 471,747 | |
| II 支出の部 | | | | | |
| 入 精 算 B | 1 人件費 | 55,170,000 | 62,577,775 | △ 7,407,775 | |
| | 所長 | | | | |
| | 常勤職員 | | | | |
| | 非常勤職員 | 18,935,000 | 5,702,134 | 13,232,866 | |
| | アルバイト | 2,325,000 | 7,281,965 | △ 4,956,965 | |
| | 調理アルバイト | 2,305,000 | 2,462,910 | △ 157,910 | |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 967,680 | 320 | |
| | 法定福利費 | 5,200,000 | 7,579,923 | △ 2,379,923 | |
| | 退職金給与引当金 | 1,060,000 | 1,185,110 | △ 125,110 | |
| | 福利厚生費 | 205,000 | 59,000 | 146,000 | ハマフレンド |
| 労務厚生費 | 190,000 | 185,075 | 4,925 | 職員検診、予防接種 | |
| 2 施設管理費 | 5,460,000 | 4,209,478 | 1,250,522 | | |
| 光熱水費 | 2,500,000 | 1,772,025 | 727,975 | 水光熱費 | |
| 庁舎管理費 | 2,820,000 | 2,386,153 | 433,847 | 各種保守、クリーンスタッフ賃金 | |
| 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 | | |
| 利用者負担金充当金 | △ 60,000 | △ 148,700 | 88,700 | | |
| 3 運営費 | 3,439,000 | 3,338,536 | 100,464 | | |
| 旅費 | 210,000 | 242,437 | △ 32,437 | | |
| 消耗品費 | 800,000 | 530,864 | 269,136 | | |
| 印刷製本費 | 50,000 | 81,237 | △ 31,237 | | |
| 修繕費 | 200,000 | 0 | 200,000 | | |
| 通信運搬費 | 400,000 | 462,365 | △ 62,365 | | |
| 賃借料 | 440,000 | 396,093 | 43,907 | | |
| 備品等購入費 | 300,000 | 529,144 | △ 229,144 | | |
| 保険料 | 200,000 | 203,197 | △ 3,197 | | |
| 雑費 | 839,000 | 893,199 | △ 54,199 | | |
| 4 本部繰入金 | 371,000 | 679,810 | △ 308,810 | | |
| 支出合計 | | 64,440,000 | 70,805,599 | △ 6,365,599 | |
| III 戻入精算 | | | | | |
| A 利用料収入合計の15% | | | | 370762 | |
| B 人件費戻入精算分 | | | | 0 | |
| 戻入合計 | | | | 370762 | |

平成 28 年度

事業報告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

平成28年度は、指定管理事業を受託する際に掲げた事業計画の第3期（5年～）の初年度であることを意識してセンター運営に取り組みました。開所から構築してきたネットワークを活かし、地域ニーズを把握し、形にするために取り組んだ1年でした。特に、基幹相談支援センターの開所に伴い、区福祉保健センターと3センターで協働しながら、自立支援協議会の再編に向けた検討や、連携強化のための研修会等の共同開催を実施しました。また、計画目標でもあった日々の支援の中から、利用者様の主体性を促すということに関して、自主活動のフォローを続けた成果として、センター内部でグループが結成され、自発的に鶴見区生活支援センター初のセルフヘルプグループが誕生しました。今後は、形成されたもの、これから安定化を図っていく形を支え続けていくことに引き続き努めていきます。

I. 生活支援センター本体事業

① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援（※別紙資料1参照）

利用登録者数は、67名増え725名。（本人希望により登録抹消者2名有）
四季折々のイベントや利用者主体の自主イベント等をサポート。年度末には、利用者10数名で鶴見区生活支援センター初のセルフヘルプグループが結成されました。セルフヘルプグループの活動に対しては、センター職員がオブザーバーという形で参加しています。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供（※別紙資料3参照）

開所から続けているライブイベントや家族会、町内会と合同で行う夏祭りに加えて新たに、区内グループホームの入居者様、職員の方々と合同のもちつき大会も行いました。関係機関とのネットワーク力を活かし、形に結びつけた年度でした。また、国際交流の機会となるレクリエーションも実施し、利用者の方々から好評を得ることができました。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援（※別紙資料2参照）

鶴見区家族会と毎月の定例会で話し合いの場を持ち、連携を深めてきました。センターのスペースを提供し、家族による家族相談を定期的の実施したり、バスハイクに同行したりと協働活動を継続しています。

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク

（※別紙資料2参照）

区福祉保健センター、基幹相談支援センターと当センターの3センターで連携し普及啓発活動を3回実施しました。また、定例カンファレンスを重ね、地域で孤立しているケース検討や、自立支援協議会の組織再編に向けての検討等を取り組みました。

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

自主サークルを継続的に後方支援してきました。その中で先にも述べたように仲間になられた方々（約 10 名）がセルフヘルプグループを立ち上げ、29年度から本格的に始動していくことになりました。

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

ヒヤリハット 0 件 事故報告 5 件

事故報告の内訳は、夕食注文受付の不備が3件、厨房内部の鍵、窓の鍵の閉め忘れがそれぞれ1件の合計5件。人為的ミス及び確認不足が原因であり、ダブルチェック体制の見直しを行い、繰り返されないよう職員間で再認識しました。

⑦ 人材育成について

各事業の主担当者を配置し、さらなる責任と自覚を持ち業務に遂行するよう内外の研修も活用しながら、職員の資質向上に努めました。また、今年度は、新卒職員が入職しました。新人育成については、内外での研修を活用しながら、育成期間を設定し、業務への取り組む段階をプログラム化し育成しました。そして、6ヶ月目からは、成長が促進されるよう地域移行支援事業の担当という役割を与えました。当センターは、比較的年齢層が若い状況になりましたが、それぞれの経験年数に応じた質を求め、レベルアップを図りながらチーム力向上に努めた1年でした。

⑧ 嘱託医相談

相談回数⇒17回 男性⇒5名 女性⇒11名 家族⇒3名

| 嘱託医 | 所属 |
|---------|------|
| ■■■■ 先生 | ■■■■ |
| ■■■■ 先生 | ■■■■ |
| ■■■■ 先生 | ■■■■ |

嘱託医相談の時間は本人・家族にとって有意義な時間です。しかし、予約が入っていても当日来所が困難になるなど事前キャンセルも多く、有効活用されていない状況があります。キャンセルなどで空白になった時間帯は、嘱託医から医療モデルのスーパーバイズを職員が受け、資質向上に努めました。今年度は、機関紙において特集ページを設けたり、ホームページ上で利用者の声を記載したりと周知方法を工夫しましたが、利用者数の増加には至っていません。市民の方々に有効活用して頂く為に、関係機関と連携を行い、周知方法の見直しを継続していきたいと思っております。

II. 自立生活アシスタント事業（※実績は、別紙資料2参照）

集中的な支援を必要としている方に対して、確実に支援を提供することを意識して取り組みました。その結果、卒業と新規受け入れのバランスがとれた一年となりました。行政や関係機関からの新規依頼も積極的に受けました。中には、本人に対する周囲の心配は強くて本事業の対象となりにくいケースも数件あり、支援を開始して定着させることの難しさを感じているところです。

今後の課題としては、登録から数年経過しているケースへの支援が挙げられます。集中的な支援の必要性は低くなっているものの、見守り等の何らかの支援は必要であり、アシスタントが抜けられないケースがあります。このようなケースについて、センター本体の相談支援の活用も含めて、利用者と支援者がともに安心して本事業を卒業できる方法を検討していきたいと思います。また、今後は卒業者へのフォローにも、より力を入れて取り組んでいきたいと思います。

III. 横浜市地域移行・地域定着支援事業及び国給付地域以降・地域定着支援事業

（※実績に関しては、別紙資料3参照）

平成28度は、職員の異動・産休等で新たな体制で本事業に取り組むことになりました。これまで、あらゆる事情が重なり、担当職員がなかなか固定されてこなかった本事業ではありますが、平成28年度に次年度も現体制で継続するという方針にし、事業の安定化を図っていくことを決定しました。

個別ケースの状況としては、退院に結びついた件数は1件でしたが、新規の依頼・相談が6件あり、動きは多かったと思われます。また、市外に住所がある方に対し（市内に転入予定）、国給付の地域移行支援事業で対応するなど、幅広く活動をした1年であったと思われます。

普及啓発活動の取組は、港北区にある日吉病院にて、退院支援プログラムの一つとして講習を港北区生活支援センターと交代で定期的実施してきた。また、平成28年度より基幹相談支援センターが開始され、区内の地域移行の取り組みについて話し合ってきた。今後も、今あるネットワークを大切に、個別支援・普及啓発共に更に発展させていきます。

IV. 計画相談支援事業 継続利用者数 38名

今年度は、人員体制の状況から積極的な新規受け入れはできない状況がありました。ゆえに、自立支援協議会相談部会でも検討を行い、新たに区内に新設された指定特定相談支援事業所では、対応困難な障害特性のある方を中心に生活支援センターで新規対応していくという形を取りました。また、相談部会の中では、精神保健福祉の専門機関として事例検討を通して新規事業所へのスーパーバイズ的な役割を担いました。

V. その他

① 苦情解決関連

昨年度に引き続き、ケースワークの中での関係性悪化、病状悪化された利用者の方からの苦情は継続してありました。また、その他にも孤独や不安から当センターにしか思いを吐きだすことのできない方が、苦情という形で福祉調整委員会や横浜市健康保健福祉局に連絡を入れるということがありました。それ以外では、電話が繋がらないというような内容の苦情はありましたが、センター内部の苦情の流れに沿うような正式な苦情は、ありませんでした。

② 横浜市生活支援センター連絡会における活動

今年度の引き続き、■■■■が副代表・■■■■がセンター向上委員業務改善チームリーダーとして、センター連絡会に貢献しました。また、業務整理チームのアンケートや、生活支援センター連絡会での話し合いを基に、今後の生活支援センターのあり方について、横浜市健康保健福祉局の担当者の方々と意見・情報交換の場を持つ機会に参加させて頂きました。その中で、A型生活支援センターの現状等を説明しました。今後も、生活支援センター連絡会での活動を通して、横浜市生活支援センターを必要とされる方にとって、より利用しやすいセンターとなるよう積極的に活動していきます。

③ 実習生受け入れ

| 養成校名 | 日数 | 実習生受入数 |
|---------------|-------|--------|
| 横浜市病院協会看護専門学校 | 10日間 | 10名 |
| 日本福祉大学 | 48日間 | 2名 |
| 神奈川県立保健福祉大学 | 12日間 | 1名 |
| 東京福祉大学 | 15日間 | 1名 |
| 田園調布学園大学 | 15日間 | 1名 |
| 日本福祉教育専門学校 | 16日間 | 3名 |
| 計 | 116日間 | 18名 |

今年度も、近い将来の仲間を増やすべく積極的に実習生を受け入れました。新規受け入れ校として、東京福祉大学が増えました。また、初の分散型実習を受け入れ、養成校側と連携をしながら、次代を担う人材の育成に尽力を致しました。

1. 平成28年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況 I

開所日数

354日

| | | | | | |
|---------------|-----------------|------|--------|-------|-------|
| 登録者数 | 28年度登録 | 男性 | 36名 | 全体 | 67名 |
| | | 女性 | 31名 | | |
| | 全登録者数 | 男性 | 403名 | 全体 | 725名 |
| | | 女性 | 292名 | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 7824名 | 1日平均 | 22.1名 |
| | | 女性 | 3332名 | 1日平均 | 9.4名 |
| | 家族 | 全体 | 822名 | 1日平均 | 2.3名 |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 392名 | 1日平均 | 1.1名 |
| | 全体合計 | | 12370名 | 1日平均 | 34.9名 |
| 援助方法 | 電話 | 男性 | 1851件 | 全体 | 5718件 |
| | | 女性 | 3867件 | | |
| | 面接 | 男性 | 342件 | 全体 | 795件 |
| | | 女性 | 453件 | | |
| | フリースペース対応 | 男性 | 997件 | 全体 | 1694件 |
| | | 女性 | 697件 | | |
| | 訪問・同行 | 男性 | 180件 | 全体 | 408件 |
| | | 女性 | 228件 | | |
| | その他 | 男性 | 57件 | 全体 | 185件 |
| | | 女性 | 128件 | | |
| 相談支援 内容内訳 | 精神的不安定 | 男性 | 275件 | 全体 | 846件 |
| | | 女性 | 571件 | | |
| | 生活(衣食住) | 男性 | 1200件 | 全体 | 3058件 |
| | | 女性 | 1858件 | | |
| | 金銭管理・経済 | 男性 | 214件 | 全体 | 441件 |
| | | 女性 | 227件 | | |
| | 就労 | 男性 | 226件 | 全体 | 455件 |
| | | 女性 | 229件 | | |
| | 家族関係 | 男性 | 141件 | 全体 | 784件 |
| | | 女性 | 643件 | | |
| | 対人関係 | 男性 | 326件 | 全体 | 835件 |
| | | 女性 | 509件 | | |
| | 制度・サービス | 男性 | 144件 | 全体 | 477件 |
| | | 女性 | 333件 | | |
| | センター利用案内 | 男性 | 205件 | 全体 | 386件 |
| | | 女性 | 181件 | | |
| | 日中活動(余暇含む) | 男性 | 174件 | 全体 | 328件 |
| | | 女性 | 154件 | | |
| | 希死念慮 | 男性 | 2件 | 全体 | 11件 |
| | | 女性 | 9件 | | |
| | その他 | 男性 | 415件 | 全体 | 1225件 |
| | | 女性 | 810件 | | |
| | 緊急対応 | 男性 | 12件 | 全体 | 30件 |
| | | 女性 | 18件 | | |
| | 入院・退院支援 | 男性 | 13件 | 全体 | 34件 |
| | | 女性 | 21件 | | |
| 複数対応 | 男性 | 3件 | 全体 | 16件 | |
| | 女性 | 13件 | | | |
| ケア会議(内部・外部含む) | 男性 | 22件 | 全体 | 46件 | |
| | 女性 | 24件 | | | |
| 医療・健康 | 男性 | 544件 | 全体 | 1500件 | |
| | 女性 | 956件 | | | |

2. 平成28年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況Ⅱ

有料サービス実施状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 | 前年度比 | 1日平均 | 実人数 | 全体実人数 |
|---------|----|-------|--------|--------|------|------|-------|
| 夕食 | 男性 | 4736人 | 7020人 | 4.7%増 | 13人 | 109人 | 186人 |
| | 女性 | 2284人 | | | 6.2人 | 77人 | |
| 入浴 | 男性 | 516人 | 893人 | 35.7%増 | 1.4人 | 29人 | 45人 |
| | 女性 | 377人 | | | 1人 | 16人 | |
| 洗濯 | 男性 | 482人 | 748人 | 13%増 | 1.3人 | 21人 | 32人 |
| | 女性 | 266人 | | | 0.7人 | 11人 | |
| インターネット | 男性 | 135人 | 152人 | 40.4%減 | 0.3人 | 17人 | 27人 |
| | 女性 | 17人 | | | 0人 | 10人 | |

自立生活アシスタント事業(数字は、延べ人数)

| 対象者 | 本人 | 家族 | 関係機関 | その他 | | |
|------|--------|--------|------|------|---------|--|
| | 1,204名 | 100名 | 302名 | 8名 | | |
| 援助方法 | 面接 | 電話等 | 訪問 | 同行 | カンファレンス | |
| | 210名 | 1,023名 | 336名 | 122名 | 65名 | |

| ② その他活動 | 回数 | 参加者数 |
|------------------------------------|----|------|
| 当事者活動・自主活動支援 | 22 | 487 |
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 52 | 485 |
| 地域支援・ネットワーク(支援関係者向け) | 39 | 67 |
| 地域交流・啓発 | 5 | 13 |
| 家族支援 | 9 | 9 |
| 職員研修 | 39 | 87 |
| ボランティア支援 | 0 | 0 |
| 場所の提供 | 3 | 7 |
| 外部会議等 | 68 | 167 |

③ 鶴見区役所、鶴見区基幹相談支援センター、鶴見区生活支援センター共催研修会

| | | |
|------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 第1回 親亡き後、障害のある方の相続について | 第2回 認知症と精神障害の違い | 第3回 鶴見区福祉こころの普及啓発イベント あい上映会 |
| 26名 | 30名 | 38名 |

別紙資料3-1 横浜市地域移行・地域定着支援事業

対象者

| 精神科病院名 | 性別 (年齢) | 支援状況 | 帰来先 ※帰結した者のみ |
|------------------|------------|---------|-----------------|
| 西井病院 | ■■■■ | 支援継続中 | |
| | ■■■■ | | |
| 日吉病院 | ■■■■ | 支援継続中 | |
| | ■■■■ | | |
| 新横浜こころの ホスピタル | ■■■■ | 支援継続中 | 自宅 |
| | ■■■■ | | |
| 西井病院 | ■■■■ | 退院後フォロー | |
| | ■■■■ | | |
| 大和病院 | ■■■■ | 退院後フォロー | |
| | ■■■■ | | |
| 栗田病院 | ■■■■ | 支援継続中 | |
| | ■■■■ | | |
| 西井病院 | ■■■■ | 退院後フォロー | |
| | ■■■■ | | |
| 保土ヶ谷病院 | ■■■■ | 支援継続中 | |
| | ■■■■ | | |
| あさひの丘病院 | ■■■■ | 支援継続中 | |
| | ■■■■ | | |
| 西井病院 | ■■■■ | 支援中止 | |
| | ■■■■ | | |
| 紫雲会横浜病院 | ■■■■ | 退院後フォロー | 単身 |
| | ■■■■ | | |
| 西井病院 | ■■■■ | 支援継続 | |
| | ■■■■ | | |

① 援助方法

| 電話等調整 | 面接 | 訪問 | 同行支援 | ケア会議 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 314回 | 75回 | 49回 | 39回 | 7回 |

別紙資料3-2

② 病院との協働活動

| No | 病院・対象機関名 | 実施日時 | 内容 | 参加者人数 | 共催センター |
|----|----------|-------|---|-------|-----------------------------|
| 1 | 日吉病院 | 7月16日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 10 | 港北区生活支援センター |
| 2 | 日吉病院 | 7月22日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 24 | 港北区生活支援センター、 青葉区生活支援センター |
| 3 | 日吉病院 | 9月6日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 14 | |
| 5 | 日吉病院 | 9月28日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 12 | |
| 6 | 日吉病院 | 12月1日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 11 | |
| 7 | 日吉病院 | 1月19日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 12 | |
| 8 | 日吉病院 | 3月2日 | 対象：退院準備中の入院中の方 テーマ：退院時に使える社会資源について | 10 | |
| 9 | 日吉病院 | 11月1日 | 対象者：デイケアを利用されている方 テーマ：就労移行支援事業所の紹介 | 18 | 港北区生活支援センター |
| 10 | 日吉病院 | 1月24日 | 対象者：デイケアを利用されている方々 テーマ：生活支援センターにて、 当事者雇用就労者の体験談 | 13 | 港北区生活支援センター |
| 11 | 日吉病院 | 3月7日 | 対象者：デイケアを利用されている方々 テーマ：地域活動支援センター紹介、 利用者の体験談の紹介 | 23 | 港北区生活支援センター |

平成29年度 鶴見区生活支援センター指定管理料収支決算書

自平成28年 4月 1日 至平成29年 3月31日

(単位 円)

| 科目 | | 予算額 | 決算額 | 差 額 | 備 考 |
|-----------------|-----------------------------------|------------|------------|------------------|-----|
| I 収入の部 | | | | | |
| | 1 指定管理料 収入 | 66,087,000 | 61,145,978 | 4,941,022 | |
| A | 2 利用料収入(給付費) | 0 | 1,776,187 | △ 1,776,187 | |
| | 3 地域相談支援及び計画 相談支援に要した交通費収 入 | 0 | 0 | 0 | |
| 収入合計 | | 66,087,000 | 62,922,165 | 3,164,835 | |
| II 支出の部 | | | | | |
| 戻入 精算 B | 1 人件費 | 57,346,000 | 54,083,209 | 3,262,791 | |
| | 所長 | | | | |
| | 常勤職員 | | | | |
| | 非常勤職員 | 10,094,000 | 9,686,201 | 407,799 | |
| | アルバイト | 5,016,000 | 4,153,179 | 862,821 | |
| | 調理アルバイト | 2,284,000 | 2,445,812 | △ 161,812 | |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 967,680 | 320 | |
| | 法定福利費 | 5,841,000 | 6,346,417 | △ 505,417 | |
| | 退職金給与引当金 | 1,162,000 | 1,166,210 | △ 4,210 | |
| | 福利厚生費 | 180,000 | 60,000 | 120,000 | |
| | 労務厚生費 | 50,000 | 199,523 | △ 149,523 | |
| 2 施設管理費 | 4,840,000 | 3,466,573 | 1,373,427 | | |
| 光熱水費 | 2,000,000 | 1,547,203 | 452,797 | 光熱水費 | |
| 庁舎管理費 | 2,700,000 | 1,907,110 | 792,890 | 点検。保守料等 | |
| 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 | | |
| 利用者負担金充当金 | △ 60,000 | △ 187,740 | 127,740 | 入浴、選択、インターネット使用料 | |
| 3 運営費 | 3,140,000 | 3,225,196 | △ 85,196 | | |
| 旅費 | 245,000 | 371,440 | △ 126,440 | 旅費交通費 | |
| 消耗品費 | 795,000 | 565,856 | 229,144 | 消耗品費 | |
| 印刷製本費 | 50,000 | 0 | 50,000 | 名刺等の印刷は就労系事業所へ委託 | |
| 修繕費 | 200,000 | 0 | 200,000 | | |
| 通信運搬費 | 395,000 | 598,318 | △ 203,318 | 電話、携帯電話、切手代等 | |
| 賃借料 | 375,000 | 362,436 | 12,564 | コピー機、車輛リース | |
| 備品等購入費 | 300,000 | 175,047 | 124,953 | | |
| 保険料 | 200,000 | 202,630 | △ 2,630 | | |
| 雑費 | 580,000 | 949,469 | △ 369,469 | 研修費、燃料費、雑費等 | |
| 4 本部繰入金 | 371,000 | 371,000 | 0 | | |
| 支出合計 | | 65,697,000 | 61,145,978 | 4,551,022 | |
| III 戻入精算 | | | | | |
| A 利用料収入合計の15% | | | | 266428 | / |
| B 人件費戻入精算分 | | | | 3262791 | / |
| 戻入合計 | | | | 3529219 | |

平成 29 年度

事 業 報 告



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

平成29年度は、第4期障害福祉計画の最終年度ということもあり、次年度に向けた様々な検討が多くなされる年度だったと思います。そうした中で、鶴見区生活支援センターでは、国の地域生活支援拠点事業における検討委員会に参加させて頂き、対象者の将来について考える機会となり、改めて生活支援センターに求められる役割を考えさせられました。年度途中での管理者交代という予期せぬ異動もありましたが、チーム力と関係機関との連携力も活かし、周囲に支えられながら大きくサービスの低下を生じさせることなく運営できたと思っております。平成29年度の活動内容の詳細について、以下の通りご報告させて頂きます。

I. 生活支援センター本体事業

① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援（※別紙資料1参照）

利用登録者数は、60名増え797名となりました。今年度は、退院して間もない為、病状不安定でユースプラザに通えない高校生2名が、日中の居場所としてセンターを常時利用するなど、これまでになかった新たな利用形態も他機関からの紹介で増えました。開所して6年、ニーズの幅の拡がりを実感しています。次年度に向けては、常時利用者の再アセスメントを行い、センター以外の過ごし方を利用者の希望を確認しつつ、構築していければと考えております。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供（※別紙資料3参照）

今年度は、日常的にはあり触れているヨガ教室などでも、利用者の方々が一人ではなかなか体験できないイベントをセンター主催で行うことにより、新たな体験をして頂くことを意識して取り組みました。センター利用者が、生活に潤いを少しでも感じることにより健康的な生活を営むことができるよう工夫を行いました。また、毎年町内会と共催している夏祭りでは、より地域の方々にセンターを知ってもらい、子供たちが将来大人になった時に、精神障害に対して正しい理解ができるよう、同日にセンター内でも多くの地域住民・子供たちが参加できる催し物を開催致しました。結果、夏祭り終了の17時まで子供たちがセンター内を走り回り、利用者の方々と楽しい時間を共有することができました。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援（※別紙資料2参照）

今年度は、区役所、基幹相談支援センター、鶴見区家族会と協力をして、本人、家族、地域住民と一緒に学べる機会、交流する機会として区福祉保健センター、基幹相談支援センターとも連携を行いながら、研修会を2回実施しました。また、定期開催である「家族による家族相談会」の場所を提供。家族会と連携を深め、地域への普及啓発活動を行いました。

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク

区福祉保健センター、基幹相談支援センターと毎月1回定例カンファ及び精神保健福祉に関する定例カンファも行いました。その結果、自立支援協議会の中に、精神保健関係機関のネットワーク構築及び地域課題の解決を目的とした、「精神保健部会」を新設するために、準備活動として精神保健福祉連絡会を定期的を開催し、ネットワークの強化に努めました。結果、平成30年度より、鶴見区自立支援協議会の中に、精神部会を立ち上げることに繋がりました。

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

生活支援センター連絡会のピワワーキンググループに職員を派遣し、ピア活動に関する見識を深めました。また、昨年度より当センター内に立ち上がったセルフヘルプグループ「かさぶらんか」の後方支援を行ったり、共にイベントの企画運営を行ったり、ピア活動が盛んになるよう尽力致しました。

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

ヒヤリハット 5件 事故報告 2件

ヒヤリハットは、有料サービス（主に夕食サービス）の記載漏れであり、人為的ミスが原因でした。人為的ミスに関しては、システムを職員間で再確認し合い再発防止に意識を高め合いました。

事故報告に関しては、センター車両の単独物損事故が2件ありました。法人主催で開催した安全運転講習を受講したり、安全運転に関する意識を高めました。引き続き、事故のないように互い注意しあい、無事故・無違反を大前提に運営していきたいと思えます。

⑦ 人材育成について

人材育成については、法人内研修、外部研修を活用し、職員の質の向上に努めました。また、内部ではOJTとメンターの役割の明確化を検討し、新人職員の成長促進を意識しながら日々取り組みました。結果、新卒1年目の職員が早期に自立し、ケースワーク及び自立支援協議会、家族会主催のフォーラムなどでも実績を残す形となり、成長スピードを速めることができたと考えております。

⑧ 嘱託医相談

ヒヤリハット 5件 事故報告 2件

| 嘱託医 | 所属 |
|----------|-------|
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |
| ■■■■■ 先生 | ■■■■■ |

医師相談は、市民の方々が精神科医に相談できる貴重な機会です。治療を受けるかどうか悩んでいる方、普段の診察時間内ではゆっくり主治医と話ができない方がセカンドオピニオン目的で利用したりしています。しかし、開催回数の割には、相談件数が少ない状況が続いています。そのため、今年度はホームページやセンター機関紙で特集ページを作成して周知方法を工夫しました。結果としては、件数UPに繋がらなかったと考えています。次年度の継続検討課題として取り組んでいければと考えております。

II. 自立生活アシスタント事業

昨年度に引き続き、常に新規を受け入れられるようにしており、概ね25名を維持しながら支援を続けてきました。また、マンパワーの問題により本事業として直ぐにサポートできない対象者に関しては、センター内の基本相談事業担当と連携し、支援できない状況をつくらぬよう調整しました。今年度は7名の方が卒業となりました。自アシ担当職員が3月末に退職したのに合わせて、担当していた利用者2名が卒業となったこともあり、前年度より人数が増えています。当初の目標を達成して卒業の機会を迎えても、身近な相談者であるアシスタントがいなくなることに不安を感じる方もいました。その場合は卒業を急がず、卒業後の生活を本人がイメージできるようになるまで時間をかけて関わりました。その結果、ご本人も納得して安心感を持って卒業できました。ただ、毎年の課題ではありますが、卒業者のフォローが出来ていない状況があるので、30年度はその方法について検討が必要と考えています。また、今年度は登録17名からのスタートとなるので、新規の受け入れを行って25名に近づけていきたいと考えます。山本職員が担当していた利用者を経験2年目の職員に引き継ぐため、なるべく混乱のない形で支援を展開できるようにすることにも配慮が必要となります。支援機関が長期に及んでいる利用者については、再アセスメントを行い、現在の支援の在り方や方向性を検討する作業を行う必要があるかと思えます。つるみ地域生活支援センターとの勉強会は定着し、顔の見える関係性が構築されています。今後、より有意義に勉強会を活用できるように先方と協力して取り組んでいければと思います。

III. 横浜市地域移行・地域定着支援事業及び国給付地域以降・地域定着支援事業

(※実績に関しては、別紙資料2参照)

新規の相談が年度の後半は無かったため、関係機関、特に同区内の鶴見西井病院との連携強化を図り、新規ケースの開拓をしていきたい。鶴見区精神保健連絡会の中で、地域移行についてのアンケート調査を鶴見西井病院で実施しているので、基幹とも連携し調査・分析を進めていきたい。

IV. 計画相談支援事業

80件

今年度は、年度途中での人事交代もあり、計画相談支援を主に担当していた職員が、施設長になったため、新規受入れを積極的に行うことはできませんでした。但し、区自立支援協議会の中で話し合い、処遇困難事例等の受け入れに関しては、引き続き対応してきました。また、鶴見区自立支援協議会の相談部会と連携し、事例検討等を通じて、区内の計画相談支援がより良くなるよう貢献致しました。

鶴見区は、精神障害を対象とする相談支援事業所も少なく、計画件数も市内の中で少ない状況ですが、次年度については職員体制を見直し、区内の計画相談支援が円滑になるよう貢献していきたいと考えております。

V. その他

① 苦情解決関連

今年度は、年度途中で管理者交代という形で、職員体制も変更され利用者様にもご迷惑をお掛けしたと思っておりますが、大きな苦情はなく、その都度対応してきました。時に健康保健福祉局に直接電話をされる方もいますが、健康保健福祉局に適切な連携を図って頂き、初期消火活動を迅速に行うことができたと考えております。今後も、苦情を貴重なご意見と受け止め運営していきたいと思っております。

② 横浜市生活支援センター連絡会における活動

今年度は、生活支援センター連絡会において当センター施設長が、A型副代表という形で幹事会及び全体会議への参加を致しました。横浜市生活支援センター標準化に向けた話し合いを中心的に行いました。また、各部会も新たなメンバー構成となった年度であり、最初の導入段階で業務整理チームのサポートを行いました。そして、全大会では、進捗状況の確認や情報共有を行いました。次年度も、後方支援を行いながら、生活支援センター連絡会が円滑に運営されるよう努めていきたいと思っております。

③ 実習生受け入れ

| 養成校名 | 日数 | 実習生受入数 |
|---------------|-------|--------|
| 横浜市病院協会看護専門学校 | 10日間 | 10名 |
| 日本福祉大学 | 48日間 | 3名 |
| 神奈川県立保健福祉大学 | 12日間 | 1名 |
| YMCA 専門学校 | 8日間 | 1名 |
| 田園調布学園大学 | 15日間 | 1名 |
| 日本福祉専門学校 | 16日間 | 2名 |
| 計 | 116日間 | 17名 |

今年度も、近い将来の仲間を増やすべく積極的に実習生を受け入れました。新規受け入れ校として、日本福祉専門学校が増えました。また、受け入れだけではなく養成校側で開催される実習報告会及び懇談会にも積極的に参加し、より実習指導が充実したものとなるよう神奈川県精神保健福祉士協会実習ネットワーク委員会にも参加し、学校側と連携を深めました。

④ 地域生活拠点モデル事業検討委員会

国の地域生活支援拠点事業について、横浜市が実施するモデル事業の検討会に委員として参加しました。多種多様な現場の方々と意見交換を行い、他障害の現状を知ることができた。また、精神障害の現状についても情報提供できたと思います。活発な意見交換が繰り返され、結果、鶴見区と旭区でモデル事業を実施することになりました。次年度は、基幹相談支援センター、区福祉保健センターをさらなる連携を深めながら、モデル区として与えられた役割を遂行していきます。

1. 平成29年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況 I

別紙資料1

開所日数

354日

| | | | | | | |
|------------|-----------------|---------|--------|-------|--------|-------|
| 登録者数 | 29年度登録 | 男性 | 33名 | 全体 | 60名 | |
| | | 女性 | 27名 | | | |
| | 全登録者数 | 男性 | 458名 | 全体 | 797名 | |
| | | 女性 | 339名 | | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 8403名 | 全体 | 11801名 | |
| | | 女性 | 3398名 | | | |
| | 家族 | 全体 | 961名 | 全体 | 1136名 | |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 175名 | | | |
| | 全体合計 | | 12937名 | | | |
| 援助方法 | 電話 | 男性 | 1385件 | 全体 | 2419件 | |
| | | 女性 | 1034件 | | | |
| | 面接 | 男性 | 333件 | 全体 | 658件 | |
| | | 女性 | 325件 | | | |
| | フリースペース対応 | 男性 | 710件 | 全体 | 1090件 | |
| | | 女性 | 380件 | | | |
| | 訪問 | 男性 | 78件 | 全体 | 194件 | |
| | | 女性 | 116件 | | | |
| | 同行 | 男性 | 61件 | 全体 | 115件 | |
| | | 女性 | 54件 | | | |
| | その他 | 男性 | 68件 | 全体 | 130件 | |
| | | 女性 | 62件 | | | |
| | 相談支援 内容内訳 | 生活(衣食住) | 男性 | 1139件 | 全体 | 2030件 |
| | | | 女性 | 891件 | | |
| 精神的不安定混乱 | | 男性 | 90件 | 全体 | 216件 | |
| | | 女性 | 126件 | | | |
| 家族関係 | | 男性 | 160件 | 全体 | 391件 | |
| | | 女性 | 231件 | | | |
| 対人関係 | | 男性 | 218件 | 全体 | 397件 | |
| | | 女性 | 179件 | | | |
| 金銭管理・経済 | | 男性 | 193件 | 全体 | 236件 | |
| | | 女性 | 43件 | | | |
| 就労 | | 男性 | 186件 | 全体 | 275件 | |
| | | 女性 | 89件 | | | |
| 制度・サービス | | 男性 | 94件 | 全体 | 195件 | |
| | | 女性 | 101件 | | | |
| センター利用案内 | | 男性 | 93件 | 全体 | 140件 | |
| | | 女性 | 47件 | | | |
| 日中活動(余暇含む) | | 男性 | 120件 | 全体 | 163件 | |
| | | 女性 | 43件 | | | |
| 医療・健康 | | 男性 | 272件 | 全体 | 561件 | |
| | | 女性 | 289件 | | | |
| 入院・退院支援 | 男性 | 12件 | 全体 | 17件 | | |
| | 女性 | 5件 | | | | |
| その他 | 男性 | 495件 | 全体 | 821件 | | |
| | 女性 | 326件 | | | | |
| | 複数対応 | | 11回 | | | |
| | ケア会議 | | 20回 | | | |
| | 緊急対応 | | 8回 | | | |

2. 平成29年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況Ⅱ

① 有料サービス実施状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 |
|---------|----|--------|--------|
| 夕食 | 男性 | 4427 人 | 6280 人 |
| | 女性 | 1853 人 | |
| 入浴 | 男性 | 428 人 | 668 人 |
| | 女性 | 240 人 | |
| 洗濯 | 男性 | 407 人 | 617 人 |
| | 女性 | 210 人 | |
| インターネット | 男性 | 130 人 | 143 人 |
| | 女性 | 13 人 | |

② その他活動

| | |
|------------------------------------|----|
| 当事者活動・自主活動支援 | 30 |
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 53 |
| 地域支援・ネットワーク(支援関係者向け) | 77 |
| 地域交流・啓発 | 4 |
| 家族支援 | 2 |
| 職員研修 | 32 |
| ボランティア支援 | 6 |
| 場所の提供 | 14 |
| 外部会議等 | 74 |

⑤横浜市地域移行支援事業

| 支援内容 | | 回数総合 | 地域移行分 |
|------|---------|------|-------|
| 援助方法 | 面接 | 18回 | 4回 |
| | 訪問 | 76回 | 3回 |
| | 同行 | 62回 | 10回 |
| | カンファレンス | 22回 | 1回 |
| | 電話 | 378回 | 14回 |
| 合計 | | 556回 | 32回 |

別紙資料 3

自主企画イベント内容

| | | |
|--------|-----------------|---------------------------------------|
| 4月14日 | お花見イベント | 三ッ池公園にて桜の鑑賞・雑談 |
| 4月21日 | スポーツイベント | 鶴見区スポーツセンターにて、バドミントン・バスケ・バレー |
| 4月1日 | 卓球&ゲーム大会 | 3階地域交流室にて卓球・トランプ・ジェンガ等 |
| 4月11日 | 男子会～ジェンガ大会～ | 3階地域交流室にてジェンガ |
| 5月11日 | 英会話イベント | 英単語練習、自己紹介文を英語でつくる。 |
| 5月23日 | 女子会クレアイベント | アロマオイルハンドマッサージ |
| 5月28日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球、オセロ、ジェンガ、トランプ等 |
| 6月15日 | 英会話 | 英語で自己紹介、ゲーム等 |
| 6月10日 | たこ焼き&焼きそばパーティー | 利用者自身でたこ焼きと焼きそばを作り、食べる |
| 7月13日 | 英会話イベント | 英文法の学習と英語のカードゲーム |
| 7月11日 | 女子会クレアスポーツイベント | 鶴見区スポーツセンターにてバドミントン、ソフトバレー等 |
| 7月29日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球、オセロ、トランプ、UNO等を楽しむ |
| 7月22日 | 夏祭り | センター内にて模擬店やライブイベント。地域のお祭りに出店、協力。 |
| 8月12日 | ネイルサロン×ハンドマッサージ | アロマオイルを使用したハンドマッサージ後に、ジェルネイルを爪に行う。 |
| 8月20日 | ヨガイベント | ヨガ講師の指導のもと、ヨガマットの上で呼吸法や運動を行う。 |
| 8月24日 | 英会話 | プリントとカードを使った英会話の練習を行う。 |
| 8月6日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプ、UNOなどのゲームを楽しむ |
| 8月26日 | DIY倶楽部 | 物作りを等して、仲間や趣味を作る |
| 9月2日 | ライブ(藤田優希) | ミュージシャンにアコースティックライブをフリースペースで披露していただく。 |
| 9月22日 | ヨガイベント | ヨガ講師の指導のもと、ヨガマットの上で呼吸法や運動を行う。 |
| 9月18日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプなどを楽しむ。 |
| 9月12日 | 話す会 | トピックを決めて自由に話をして楽しむ。 |
| 9月20日 | 絵を描く会 | 見本を見ながら色鉛筆やクレヨンで絵を描くことを楽しむ。 |
| 9月13日 | お月見イベント | 伝統行事であるお月見に関して話をし、お汁粉にてお団子を楽しむ |
| 10月29日 | モンハンの会 | ゲーム「モンスターハンター」を集まって行う。 |
| 10月16日 | 英会話 | 英会話とゲームを行う。 |
| 10月24日 | ハロウィンイベント | かぼちゃタルトを作る。ゲームをする。 |
| 10月28日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプなどを楽しむ。 |
| 10月30日 | 森永工場見学 | 森永工場を見学する。 |
| 11月15日 | 女子会クレア | アロマハンドマッサージを行う |
| 11月12日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプなどをみんなで楽しむ。 |
| 11月28日 | 秋の総持寺ウォーキング | 総持寺で紅葉を楽しみながら、みんなでウォーキングを行う。 |
| 11月22日 | 英会話 | 英単語を使ったゲームを行う。 |
| 11月29日 | スポーツイベント | スポーツセンターにて卓球、バドミントン、バレーボールを行う。 |
| 12月11日 | うにランプ作り | うにランプを作る。 |
| 12月17日 | クリスマス会 | 軽食をとりながらビンゴ大会などを行い季節のイベントを楽しむ。 |
| 12月17日 | クリスマスライブ(漆崎信二) | アコースティックライブを行う。 |
| 12月18日 | クリーンアップ作戦 | 利用者と共にセンター内の清掃を行う |
| 12月4日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプなどを楽しむ。 |
| 12月20日 | 英会話 | 英会話の練習 |
| 1月8日 | 映画について話す会 | 好きな映画やおすすめの映画について語り合う。 |
| 1月4日 | 書初めイベント | 各々自由な文字で書初めを行う。 |
| 1月5日 | 総持寺初詣 | 総持寺へ初詣へ行く。 |
| 1月21日 | ヨガイベント | ヨガ講師の指導の元、ヨガを行う。 |
| 1月30日 | 英会話イベント | 英会話の練習とゲームを行う。 |
| 1月28日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やオセロなどをみんなで楽しむ。 |
| 2月16日 | 英会話 | 英語で数字を言う練習。 |
| 2月15日 | パレンタインイベント | チョコブラウニーを作ってデコレーションをする。 |
| 2月8日 | モーニングイベント | 朝食を食べる |
| 2月9日 | 立春・春の始まりを感じよう | 立春について学び、季節の物を食べる |
| 2月17日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やトランプなどを楽しむ |
| 3月3日 | 実習指導者情報交換会 | 学校側と実習受け入れ先機関との意見交換会 |
| 3月15日 | たこ焼きイベント | 参加者が協力してたこ焼き・焼きそばを作り、食べる |
| 3月23日 | 映画鑑賞イベント | 映画館に映画を観に行くイベント |
| 3月25日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球やゲームを楽しむ。 |

平成29年度 鶴見区生活支援センター指定管理料収支決算書

自平成29年 4月 1日 至平成30年 3月31日 (単位 円)
 (横浜市鶴見区生活支援センター一括版)

| 科目 | | 予算額 | 決算額 | 差 額 | 備 考 |
|---------------|-------------------------------|------------|------------|-------------|------------------|
| I 収入の部 | | | | | |
| | 1 指定管理料 収入 | 66,354,000 | 66,354,000 | 0 | |
| A | 2 利用料収入(給付費) | | 1,457,161 | △ 1,457,161 | |
| | 3 地域相談支援及び計画 相談支援に要した交通費収入 | | | 0 | |
| 収入合計 | | 66,354,000 | 67,811,161 | △ 1,457,161 | |
| II 支出の部 | | | | | |
| 戻入 精算 B | 1 人件費 | 57,213,000 | 52,300,679 | 4,912,321 | |
| | 所長 | | | | |
| | 常勤職員 | | | | ※計画相談人件費 ¥222080 |
| | 非常勤職員 | 9,910,000 | 6,724,099 | 3,185,901 | |
| | アルバイト | 5,440,000 | 4,170,045 | 1,269,955 | |
| | 調理アルバイト | 2,510,000 | 2,389,163 | 120,837 | |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 967,680 | 320 | |
| | 法定福利費 | 5,870,000 | 5,891,463 | △ 21,463 | |
| | 退職金給与引当金 | 1,209,000 | 1,513,971 | △ 304,971 | |
| | 福利厚生費 | 60,000 | 86,500 | △ 26,500 | |
| | 労務厚生費 | 190,000 | 170,957 | 19,043 | |
| | 2 施設管理費 | 4,840,000 | 5,203,550 | △ 363,550 | |
| | 光熱水費 | 2,000,000 | 1,569,781 | 430,219 | |
| | 庁舎管理費 | 2,700,000 | 3,275,649 | △ 575,649 | |
| | 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| | 利用者負担金充当金 | △ 60,000 | 158,120 | △ 218,120 | |
| | 3 運営費 | 3,930,000 | 3,420,406 | 509,594 | |
| | 旅費 | 400,000 | 445,031 | △ 45,031 | |
| | 消耗品費 | 795,000 | 412,545 | 382,455 | |
| | 印刷製本費 | 60,000 | 86,726 | △ 26,726 | |
| | 修繕費 | 200,000 | 235,695 | △ 35,695 | |
| | 通信運搬費 | 600,000 | 636,074 | △ 36,074 | |
| | 賃借料 | 375,000 | 441,746 | △ 66,746 | |
| | 備品等購入費 | 400,000 | 184,050 | 215,950 | |
| | 保険料 | 200,000 | 199,412 | 588 | |
| | 雑費 | 900,000 | 779,127 | 120,873 | |
| | 4 本部繰入金 | 371,000 | 371,000 | 0 | |
| 支出合計 | | 66,354,000 | 61,295,635 | 5,058,365 | |
| III 戻入精算 | | | | | |
| A 利用料収入合計の15% | | | | 218574 | |
| B 人件費戻入精算分 | | | | 4912321 | |
| 戻入合計 | | | | 5130895 | |

平成 30 年度

事 業 報 告

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日



社会福祉法人 横浜市社会事業協会

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

平成 30 年度は、国の地域生活支援拠点事業と市の生活支援センター標準化に向けた検討を行う中で、それぞれの事業においてモデル区として与えられた役割を自覚し、サービス向上に努めながら運営致しました。利用者、職員にとっても開館時間・休館日の変更などもあり、戸惑いもありましたが、アウトリーチ支援の強化という点においては、一定の成果をあげることができました。平成 30 年度の活動内容の詳細については、以下の通りご報告させていただきます。

I. 生活支援センター本体事業

① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援（※別紙資料 1 参照）

利用登録者数は、911 名となりました。セルフヘルプグループ活動を行う利用者と共に新規登録された方々が利用しやすい雰囲気作りを職員も意識して努めてきました。そうした中で、5 月からモデル区として開館日数・時間を減らしても全体的な来所者数に大きな差はなかったのだと思います。精神障害の正しい理解が地域の中でなされるよう、町内会、利用者、職員と共に今年度も夏祭りを合同開催しました。地域住民、特に子供たちに生活支援センターのことを知ってもらえる良い機会とするため、利用者主体のビンゴ大会も同時刻に開催しました。今年度は、合計 128 名の子供たちがセンター内で楽しい時間を利用者と共に共有し、体験を通じた生活支援センターの理解に繋がったのではないかと思います。こうした活動が、いつか芽が出ることにより精神障害者の権利擁護に結び付くことができるよう、今後も継続していきたいと思っております。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供（※別紙資料 3 参照）

これまで継続しているイベント及び朝食会や昼食会等の回数を増やし、利用者ニーズに対応しました。特に外部ボランティアを増やし、イベントの講師に来ることにより、精神障害について知って頂く機会となるよう意識しながら実施してきました。内容等については、別紙資料 3 の通りです。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援

今年度は、区役所、基幹相談支援センター、鶴見区家族会と町内会と協力をして、本人、家族、地域住民と一緒に学べる機会、交流する機会として研修会を実施しました。また、定期開催である「家族による家族相談会」の場所を提供。家族会と連携を深め、地域への普及啓発活動を行いました。内容等は、以下の通りです。

【本人・家族・地域住民向け→「災害時のメンタルヘルス」 参加人数 62 名】

【家族向け→「元気行動回復プラン～元気になる工夫を考えよう～」参加人数 12 名】

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク

区福祉保健センター、基幹相談支援センターとの3機関連携だけではなく、地域ケアプラザと共に以下の会を実施しました。

- ・馬場地域ケアプラザでの障害理解講座「精神障害について」講演
- ・馬場地域ケアプラザ主催 民生委員等を対象とした生活支援センター見学会
- ・鶴見区社会福祉協議会主催 民生委員等を対象とした生活支援センター見学会

また、毎月の定例カンファレンスのみならず、2か月に1回のペースで区内有志による3障害支援施設合同での事例検討会「うみやま会」を開催し、フォーマルな集いだけではなく、インフォーマルな会においても連携強化に努めました。結果、精神保健分野以外の機関とも顔の見える関係を構築することができました。

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

生活支援センター連絡会のピワワーキンググループに職員を派遣し、ピア活動に関する見識を深めました。また、昨年度より当センター内に立ち上がったセルフヘルプグループ「かさぶらんか」の後方支援を行ったり、共にイベントの企画運営を行ったり、ピア活動が盛んになるよう尽力致しました。

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

ヒヤリハット 5件 事故報告 2件

ヒヤリハットは、有料サービス（主に夕食サービス）の記載漏れであり、人為的ミスが原因でした。人為的ミスに関しては、システムを職員間で再確認し合い再発防止に意識を高め合いました。

事故報告に関しては、センター車両の単独物損事故が2件ありました。法人主催で開催した安全運転講習の資料を見直したり、再発防止に向け、安全運転に関する意識を高めました。引き続き、事故のないように互い注意しあい、無事故・無違反を大前提に運営していきたいと思えます。

⑦ 人材育成について

人材育成については、モデル事業を行い日中の職員配置が手厚くなったことを利用し、積極的に複数でアプローチした方が良いケースに指導職と若手のチームで訪問し、現場でのOJTを意識した人材育成を行いました。また、3年未満の若手を外部会議、区自立支援協議会に派遣し、成長を促しました。結果、外部との交渉能力等のコミュニケーションスキルアップにつながったと思えます。引き続き、バイザー、バイジー、メンターそれぞれが成長できるような人材育成に取り組んでいきたいと思えます。

II. 自立生活アシスタント事業

29年度に退職した職員のケース（10名）について担当者が交代となったため、利用者が不安に感じないように配慮して支援を行った。合わせて再アセスメントの機会とし、新たな視点を取り入れて支援をすることを心がけた。31年度以降の自アシ事業の在り方が未定だったこともあり、自アシの全ケースについて支援の在り方を見直す機会とした。ご本人の希望する生活の実現のために、ご本人が自身で出来る事、自アシで出来る支援、自アシでなくても出来る支援を分けて考え、終結に向けた支援をより意識する一年とした。また、今年もつるみ地域生活支援センターとの勉強会を継続し、障害特性の違いを学ぶための交換訪問やお互いの事業所のイベントへの参加を実施した。

31年度以降の自立生活援助との兼ね合いが見えず、新規契約を保留にし、相談及び必要時には支援をしてきたが、正式な契約を結んでいないため、件数は増えなかった。グループホームからの退去支援等、支援が必要なケースは相談中のケースとして受け入れた。再アセスメントの結果、長期化や停滞をしていた4件のケースを他事業（センター基本相談を含む）につなげたり、ご本人と話して状況を整理して終結へつなげた。しかし、長年アシスタントが生活の一部になっていて、状況に変化のないケースについては引き続きの課題である。担当者が交代したケースについては、前任者の支援方法を受け継ぎながらも、ご本人と新しい関係性を構築できるように丁寧に関わった。その結果、利用者を混乱させることなく支援を継続できた。関わる職員が変わることで新たな利用者の一面を見ることができたという成果もあった。

30年度の反省点としては、個別支援計画の見直しをきめ細やかにできなかったという点が挙げられる。体調が安定しなかったり日々の直接支援に追われてしまい、ご本人と一緒に計画を見直す時間を取れなかったケースが数件ある。31年度は半年～1年の見直しを確実に言い、より適切な支援につなげていけるようにしたい。

つるみ地域生活支援センターとの勉強会については29年度より回数を減らしての開催となった。当事業所にも精神と知的の障害を重複している利用者もいるため、見立てや対応について学ぶ貴重な機会となった。”

| 平成30年度 | 年間契約者 (延べ) | 新規契約者 | 年度末契約中 | 卒業者 |
|--------|---------------|-------|--------|-----|
| 人数 | 17名 | 0名 | 13名 | 4名 |

III. 横浜市地域移行・地域定着支援事業及び国給付地域以降・地域定着支援事業

3機関連携の中で、昨年度から準備をしてきた「精神保健部会」を区自立支援協議会の中に組織することができました。主に地域移行をテーマに協議を重ねると共に“精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム”の検討もできる部会として位置づけました。その中で、昨年度に区内精神科病院に対して行った退院意欲に関するアンケート調査の集計及び分析を部会内で行い、これまで協働活動が定期的には実施できなかった区内精神科病院にアンケート結果を基に協働活動の必要性を説明しました。その結果、次年度から協働活動の再開を実施することになりました。そうした中で、新規受入れ件数を伸ばし、1人でも多くの方々の地域で生活したいという希望の実現に貢献していきたいと思います。また、退院後フォローが長期化している方々を再アセスメントし、他事業との連動をより意識していきたいと思います。

IV. 計画相談支援事業

今年度は、相談支援専門員体制を見直し1名の職員を主担当として配置しました。主担当職員が、定例カンファレンス及び区自立支援協議会相談部会に出席し、新規受入れを円滑に行えるよう調整しました。結果、月5～6件ペースで新規受入れを行い区の計画相談支援導入率UPに貢献しました。また、基幹相談支援センターと協働で区内の相談支援事業所への訪問を行い、計画作成の助言等を行い、区全体の相談支援事業所の質の向上にもつなげることができたと思っています。

| |
|----------|
| 平成30年度実績 |
|----------|

| |
|---------------------------|
| 計画作成・モニタリング 324件（30年度確定分） |
|---------------------------|

V. その他

① 苦情解決関連

今年度は、開館時間の変更に基づくモデル事業に対する苦情が開始当初にあったが、説明を行い納得頂けた。その他には、通常業務の中で、電話のつながりの悪さ等に対する多少の苦情はあるものの、その都度対応して、初期消火に努めた。時にケースワークを展開する中での行き違いにより、健康保健福祉局に直接電話をされる方もいますが、健康保健福祉局に適切な連携を図って頂き、初期消火活動を迅速に行うことができたと考えております。今後も、苦情を貴重なご意見と受け止め運営していきたいと思います。

② 横浜市生活支援センター連絡会における活動

今年度の活動は、以下の通りです。

| |
|----------------------|
| 所長→A型副代表 |
| 職員1名→業務整理チーム |
| 職員1名→ピアを考えるワーキンググループ |

業務整理チームにおいては、集計表マニュアルの再作成に貢献しました。

ピアを考えるワーキンググループにおいては、アンケートを作成し集計を行い、今後の検討課題の抽出に貢献しました。

センター連絡会では、毎回参加する職員を変更し現場レベルの職員が顔の見える関係になれるよう内部調整をしました。引き続き、課題検討プロジェクトなども行われるので、継続して積極的に参加していきたいと思っております。

③ 実習生受け入れ

| 養成校名 | 日数 | 実習生受入数 |
|---------------|------|--------|
| 横浜市病院協会看護専門学校 | 10日間 | 10名 |
| 日本福祉大学 | 10日間 | 1名 |
| 神奈川県立保健福祉大学 | 12日間 | 1名 |
| YMCA 専門学校 | 8日間 | 1名 |
| 田園調布学園大学 | 15日間 | 1名 |
| 日本福祉専門学校 | 16日間 | 2名 |
| 計 | 61日間 | 16名 |

今年度も、近い将来の仲間を増やすべく積極的に実習生を受け入れました。継続して受け入れていることにより、養成校側との連携強化が図れていると思っております。また、受け入れだけでなく養成校側で開催される実習報告会及び懇談会にも積極的に参加し、より実習指導が充実したものとなるよう神奈川県精神保健福祉士協会実習ネットワーク委員会にも参加し、養成校側と連携を深めました。

④ 地域生活拠点モデル事業検討委員会

モデル区として引き続き、検討委員会に出席しました。健康保健福祉局及び関係機関の方々との協議を重ねながら、ガイドラインの作成に貢献しました。区内においては、定期的に3機関で協議する場を設けた他、ナイトケアショートケア連絡会を開催し、区内の現状把握及び新規ショートステイ先の検討等を行いました。今後は、区内においても精神障害者が利用できるショートステイ先の具体的な検討を重ね形にしていきたいと思っております。

⑤ 横浜市生活支援センター標準化に向けた課題検討委員会

モデル区として課題検討委員会に参加しました。その中で、現状モデルのメリット・デメリットを分析し、モデル区の責務として資料提出を行いました。現状モデルのデメリットを改善するために、新モデルの提案も行いました。その結果、平成31年度に一斉スタートする新モデルの構築に微力ながら貢献できたのではないかと思います。今後は、一定の標準化がなされたハード面の安定化と検討開始されていないソフト面の標準化に向けて、モデル区として分析し市民サービスの向上に繋がるよう尽力していきたいと思ひます。

1. 平成30年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況 I

別紙資料1

開所日数

311日

| | | | | | |
|----------------------|-----------------|------|--------|-------|-------|
| 登録者数 | 30年度登録 | 男性 | 57名 | 全体 | 67名 |
| | | 女性 | 59名 | | |
| | 全登録者数 | 男性 | 512名 | 全体 | 911名 |
| | | 女性 | 399名 | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 8022名 | 1日平均 | 22.7名 |
| | | 女性 | 2983名 | 1日平均 | 8.4名 |
| | 家族 | 全体 | 976名 | 1日平均 | 2.8名 |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 152名 | 1日平均 | 0.4名 |
| | 全体合計 | | 12133名 | 1日平均 | 34.3名 |
| 援助方法 | 電話 | 男性 | 2404件 | 全体 | 5229件 |
| | | 女性 | 2825件 | | |
| | 面接 | 男性 | 554件 | 全体 | 960件 |
| | | 女性 | 406件 | | |
| | フリースペース対応 | 男性 | 704件 | 全体 | 1060件 |
| | | 女性 | 356件 | | |
| | 訪問・同行 | 男性 | 502件 | 全体 | 921件 |
| | | 女性 | 419件 | | |
| | その他 | 男性 | 69件 | 全体 | 147件 |
| | | 女性 | 78件 | | |
| 相談支援 内容内訳 | 精神的不安定 | 男性 | 202件 | 全体 | 459件 |
| | | 女性 | 257件 | | |
| | 生活(衣食住) | 男性 | 1689件 | 全体 | 3403件 |
| | | 女性 | 1714件 | | |
| | 金銭管理・経済 | 男性 | 314件 | 全体 | 465件 |
| | | 女性 | 151件 | | |
| | 就労 | 男性 | 261件 | 全体 | 425件 |
| | | 女性 | 164件 | | |
| | 家族関係 | 男性 | 143件 | 全体 | 560件 |
| | | 女性 | 417件 | | |
| | 対人関係 | 男性 | 304件 | 全体 | 694件 |
| | | 女性 | 390件 | | |
| | 制度・サービス | 男性 | 730件 | 全体 | 1486件 |
| | | 女性 | 756件 | | |
| | センター利用案内 | 男性 | 95件 | 全体 | 207件 |
| | | 女性 | 112件 | | |
| | 日中活動(余暇含む) | 男性 | 243件 | 全体 | 380件 |
| | | 女性 | 137件 | | |
| | その他 | 男性 | 406件 | 全体 | 849件 |
| | | 女性 | 443件 | | |
| 緊急対応 | | 13件 | 全体 | 13件 | |
| 入院・退院支援 | 男性 | 55件 | 全体 | 73件 | |
| | 女性 | 18件 | | | |
| 複数対応 | 男性 | 64件 | 全体 | 64件 | |
| ケア会議(内部・外部含む) | 男性 | 90件 | 全体 | 90件 | |
| 医療・健康 | 男性 | 535件 | 全体 | 1098件 | |
| | 女性 | 563件 | | | |

2. 平成30年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況Ⅱ

有料サービス実施状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 | 1日平均 | 実人数 | 全体実人数 |
|---------|----|--------|--------|-------|-------|-------|
| 夕食 | 男性 | 4221 人 | 5958 人 | 13 人 | 109 人 | 186 人 |
| | 女性 | 1737 人 | | 6.2 人 | 77 人 | |
| 入浴 | 男性 | 396 人 | 629 人 | 1.4 人 | 29 人 | 45 人 |
| | 女性 | 233 人 | | 1 人 | 16 人 | |
| 洗濯 | 男性 | 242 人 | 346 人 | 1.3 人 | 21 人 | 32 人 |
| | 女性 | 104 人 | | 0.7 人 | 11 人 | |
| インターネット | 男性 | 118 人 | 361 人 | 0.3 人 | 17 人 | 27 人 |
| | 女性 | 243 人 | | 0 人 | 10 人 | |

| ② その他活動 | 回数 | 参加者数 |
|------------------------------------|----|------|
| 当事者活動・自主活動支援 | 2 | 14 |
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 59 | 730 |
| 地域支援・ネットワーク(支援関係者向け) | 13 | 22 |
| 地域交流・啓発 | 7 | 11 |
| 家族支援 | 5 | 13 |
| 実習生受入れ | 72 | 11 |
| 職員研修 | 33 | 55 |
| ボランティア支援 | 1 | 1 |
| 場所の提供 | 0 | 0 |
| 外部会議等 | 84 | 129 |

嘱託医相談

| | | | |
|-----|-----|------|-----|
| 総回数 | 48回 | 相談件数 | 17回 |
|-----|-----|------|-----|

3.平成30年度 横浜市鶴見区生活支援センター 年間運営状況Ⅲ

別紙資料3

自主事業等

| 実施月 | プログラム名 | 内容等 | 参加人数 |
|-----------|--------------|---------------------|------|
| 4月28日 | 利用者ミーティング | 所長よりモデル事業の説明等 | 8 |
| 4月15日 | ライブイベント | アコースティックギター演奏 | 19 |
| 4月27日 | 工場見学会 | 崎陽軒工場見学 | 12 |
| 4月22日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 4 |
| 5月20日 | モーニングイベント | 朝食会を実施 | 7 |
| 5月13日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 5 |
| 5月30日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 7 |
| 5月5日 | こどもの日イベント | わらび餅を作り、食べながら交流 | 10 |
| 5月31日 | バトミントン大会 | バトミントンを実施 | 7 |
| 5月22日 | 女子会クレア | キッシュを作り、食べながら交流 | 4 |
| 5月19日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 9 |
| 6月2日 | クリーンアップ大作戦 | センター内の清掃を実施 | 5 |
| 6月17日 | 昼食会 | 豚丼を提供し、食べながら交流 | 11 |
| 6月23日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 8 |
| 7月31日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 7 |
| 7月29日 | 夏祭り | センター内で模擬店やイベントを実地 | 251 |
| 7月7日 | 昼食会 | ジャージャー麺を提供し、食べながら交流 | 7 |
| 7月19日 | 飾り作りイベント | 夏祭りの飾りを作る | 7 |
| 7月15日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 9 |
| 8月26日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 5 |
| 8月19日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 8 |
| 9月23日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 4 |
| 9月26日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 7 |
| 9月16日 | 昼食会 | 鶏の竜田揚げを提供し、食べながら交流 | 9 |
| 9月9日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 3 |
| 10月31日 | ハロウィン | ハヤシライスやデザートを作って食べる | 10 |
| 10月27日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 7 |
| 11月18日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 8 |
| 11月14日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 7 |
| 11月24日 | 紅葉散策 | 総持寺を散策する | 8 |
| 11月28日 | スポーツイベント | スポーツをする | 7 |
| 11月21日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 3 |
| 12月21日 | クリスマスイベント | クリスマス会を実施 | 11 |
| 12月11日 | クリスマスリース作り | クリスマスリースを作る | 5 |
| 12月26日 | スポーツイベント | スポーツをする | 9 |
| 12月9日 | 映画について話そう!の会 | 今年観た映画について話す | 4 |
| 12月2日 | 大掃除イベント | センター内の清掃を実施 | 8 |
| 1月20日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 4 |
| 1月31日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 9 |
| 1月5日 | 初詣・総持寺イベント | 総持寺へ御参りに行く | 5 |
| 1月6日 | 美文字教室 | 書初めをする | 6 |
| 2月19日 | スポーツイベント | スポーツをする | 6 |
| 2月13日 | モーニングイベント | 朝食会を実施 | 3 |
| 2月3日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 10 |
| 3月28日 | スポーツイベント | スポーツをする | 4 |
| 3月10日 | ヨガイベント | 外部講師によるヨガ教室 | 3 |
| 3月21日 | ライブイベント | アコースティックギター演奏 | 17 |
| 3月22日 | 英会話 | 外部講師による英会話教室 | 5 |
| 3月9日 | 卓球&ゲーム大会 | 卓球とゲームを実施 | 7 |
| 3月17日 | 昼食会 | すき焼きを提供し、食べながら交流 | 8 |
| 3月23日 | 美文字教室 | 文字を書く練習をする | 5 |
| 実施回数合計:51 | | 参加人数合計: | 612 |

平成30年度 鶴見区精神障害者生活支援センター指定管理料収支決算書
(総括版)

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

(単位 円)

| 科目 | | 予算額 | 決算額 | 差 額 | 備 考 | |
|-----------------|-----------------|------------|------------|-------------|------------------------------|-----------|
| I 収入の部 | | | | | | |
| 1 | 指定管理料収入 | 64,288,000 | 64,288,000 | 0 | | |
| 2 | 法人負担分 | | 1,313,502 | ▲ 1,313,502 | | |
| 3 | 相談支援事業に要した交通費収入 | | | 0 | | |
| 収入合計 | | 64,288,000 | 65,601,502 | ▲ 1,313,502 | | |
| II 支出の部 | | | | | | |
| 戻入精算 | 1 | 人件費 | 55,597,000 | 57,285,027 | ▲ 1,688,027 | |
| | | 所長 | | | | |
| | | 常勤職員 | | | | 超過勤務手当増 |
| | | 非常勤職員 | 12,885,000 | 12,866,285 | 18,715 | |
| | | アルバイト | 3,850,000 | 4,715,424 | ▲ 865,424 | |
| | | 調理アルバイト | 3,050,000 | 2,442,275 | 607,725 | |
| | | 嘱託医賃金 | 968,000 | 967,680 | 320 | |
| | | 法定福利費 | 6,600,000 | 6,463,149 | 136,851 | |
| | | 退職金給与引当金 | 1,200,000 | 1,528,160 | ▲ 328,160 | |
| | | 福利厚生費 | 160,000 | 163,962 | ▲ 3,962 | 健康診断、予防接種 |
| | 労務厚生費 | 50,000 | 62,750 | ▲ 12,750 | ハマフレンド | |
| | 2 | 施設管理費 | 4,840,000 | 4,866,198 | ▲ 26,198 | |
| | 光熱水費 | 2,000,000 | 1,493,491 | 506,509 | | |
| | 庁舎管理費 | 2,700,000 | 3,030,287 | ▲ 330,287 | 点検、保守料等 | |
| | 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 | | |
| | 利用者負担金充当金 | ▲ 60,000 | 142,420 | ▲ 202,420 | 入浴80900洗濯38500IT12620印刷10400 | |
| | 3 | 運営費 | 3,480,000 | 3,079,277 | 400,723 | |
| | 旅費 | 555,000 | 308,203 | 246,797 | 電動自転車を活用 | |
| | 消耗品費 | 550,000 | 768,807 | ▲ 218,807 | | |
| | 印刷製本費 | 60,000 | | 60,000 | | |
| | 修繕費 | 200,000 | 50,000 | 150,000 | 車両修理代(免責) | |
| | 通信運搬費 | 610,000 | 752,924 | ▲ 142,924 | 計画相談関連郵送料増加 | |
| | 賃借料 | 375,000 | 369,897 | 5,103 | | |
| | 備品等購入費 | 300,000 | 104,620 | 195,380 | | |
| | 保険料 | 150,000 | 209,378 | ▲ 59,378 | | |
| | 雑費 | 680,000 | 515,448 | 164,552 | | |
| | 4 | 本部繰入金 | 371,000 | 371,000 | 0 | |
| 支出合計 | | 64,288,000 | 65,601,502 | ▲ 1,313,502 | | |
| III 戻入精算 | | | | | | |
| 人件費戻入精算分 | | | | 0 | | |
| 戻入合計 | | | | 0 | | |

令和1年度 事業報告

社会福祉法人 横浜市社会事業協会
横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

令和1年度 事業報告書

令和1年度は、生活支援センター標準化に向けたモデル事業の2年目であり鶴見区生活支援センターでは、1年目のモデル内容とは異なり日曜日休館を実施しました。また、鶴見区は、地域生活支援拠点事業の先行モデル区でもあったことから、全区標準化の目的の1つであるアウトリーチ活動の強化を引続き図りと共に、生活支援センター本来機能である地域活動支援センター事業を活用し、精神障害に関する理解が地域の中で促進されることを意識し運営に取り組みました。利用者の主体性が発揮できる機会の提供を考え、当事者、家族、地域住民と共に取り組むことを重視し活動してきたことをご報告致します。

【施設概要】

| |
|---|
| 名称：社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター |
| 所在地：〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4階 |
| 電話：045-576-3172（一般相談回線） |
| 045-576-3174（申込専用及び緊急対応回線） |
| 045-576-3170（自立生活アシスタント事業専用回線） |
| 045-576-3171（横浜市退院サポート事業専用回線） |
| F A X：045-576-3172 |
| E mail：tsurumi-s.c@ysjk.jp |

I. 令和1年度 運営実績報告

① 登録者数及び来館者数

開所日数：327日

| | | | | | | | |
|------|-----------------|----|-------|---|----|------|---|
| 登録者数 | 令和1年度登録 | 男性 | 30 | 名 | 全体 | 59 | 名 |
| | | 女性 | 29 | 名 | | | |
| | 全登録者数 | 男性 | 540 | 名 | 全体 | 968 | 名 |
| | | 女性 | 428 | 名 | | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 6843 | 名 | 全体 | 9298 | 名 |
| | | 女性 | 2455 | 名 | | | |
| | 家族 | 全体 | 743 | 名 | 全体 | 1189 | 名 |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 446 | 名 | | | |
| | 全体合計 | | 10487 | 名 | | | |

年度途中から週1日8時間運営（土曜日）モデルが開始されたが、土曜日は隔週でイベントを実施したこともあり、来館者数に大きな変化は見られませんでした。当事者活動を行うグループの存在が、新規利用者の利用定着にも好影響していたと思います。

② 各種サービス利用状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 |
|-------------|----|--------|--------|
| 夕食 | 男性 | 3237 人 | 4979 人 |
| | 女性 | 1742 人 | |
| 入浴 | 男性 | 475 人 | 565 人 |
| | 女性 | 90 人 | |
| 洗濯 | 男性 | 236 人 | 313 人 |
| | 女性 | 77 人 | |
| インター ネット | 男性 | 227 人 | 249 人 |
| | 女性 | 22 人 | |

週1日夕食提供日がなくなったことから、隔週で昼食会を開催しました。通常の夕食サービス提供の中でも、利用者が普段ではなかなか食べない斬新なニューを取り入れながら、メンタルヘルスの一環として食を楽しむということを意識し提供しました。

II. 地域活動支援センター事業 支援状況報告

【援助方法】

| | | | | | | |
|-----------|----|------|---|----|------|---|
| 電話 | 男性 | 1422 | 件 | 全体 | 3643 | 件 |
| | 女性 | 2221 | 件 | | | |
| 面接 | 男性 | 411 | 件 | 全体 | 672 | 件 |
| | 女性 | 261 | 件 | | | |
| フリースペース対応 | 男性 | 1172 | 件 | 全体 | 1598 | 件 |
| | 女性 | 426 | 件 | | | |
| 訪問 | 男性 | 153 | 件 | 全体 | 257 | 件 |
| | 女性 | 104 | 件 | | | |
| 同行 | 男性 | 88 | 件 | 全体 | 140 | 件 |
| | 女性 | 52 | 件 | | | |
| その他 | 男性 | 30 | 件 | 全体 | 48 | 件 |
| | 女性 | 18 | 件 | | | |

【相談支援内訳】

| | | | | | | |
|----------|----|------|---|----|------|---|
| 生活(衣食住) | 男性 | 2238 | 件 | 全体 | 4343 | 件 |
| | 女性 | 2105 | 件 | | | |
| 精神的不安定混乱 | 男性 | 171 | 件 | 全体 | 556 | 件 |
| | 女性 | 385 | 件 | | | |

| | | | | | | |
|------------|----|-----|---|----|------|---|
| 家族関係 | 男性 | 116 | 件 | 全体 | 500 | 件 |
| | 女性 | 384 | 件 | | | |
| 対人関係 | 男性 | 353 | 件 | 全体 | 762 | 件 |
| | 女性 | 409 | 件 | | | |
| 金銭管理・経済 | 男性 | 355 | 件 | 全体 | 472 | 件 |
| | 女性 | 117 | 件 | | | |
| 就労 | 男性 | 383 | 件 | 全体 | 592 | 件 |
| | 女性 | 209 | 件 | | | |
| 制度・サービス | 男性 | 732 | 件 | 全体 | 1477 | 件 |
| | 女性 | 745 | 件 | | | |
| センター利用案内 | 男性 | 162 | 件 | 全体 | 285 | 件 |
| | 女性 | 123 | 件 | | | |
| 日中活動(余暇含む) | 男性 | 245 | 件 | 全体 | 348 | 件 |
| | 女性 | 103 | 件 | | | |
| 医療・健康 | 男性 | 495 | 件 | 全体 | 1003 | 件 |
| | 女性 | 508 | 件 | | | |
| 入院・退院支援 | 男性 | 11 | 件 | 全体 | 20 | 件 |
| | 女性 | 9 | 件 | | | |
| その他 | 男性 | 219 | 件 | 全体 | 478 | 件 |
| | 女性 | 259 | 件 | | | |
| 複数対応 | | 80 | 回 | | 80 | 件 |
| ケア会議 | | 71 | 回 | | 71 | 件 |
| 緊急対応 | | 18 | 回 | | 18 | 件 |

① 相談支援

センターの居場所機能のみ長期利用されている方々の再アセスメントに注力致しました。結果、金銭や住環境における課題が判明し、課題解決に向けてケースワークを展開しました。特に、長年ごみ屋敷状態になっていた方に関しては、モデル事業において人員配置を手厚くできたことを活かし、職員総出で片づけを行うことができヘルパー導入を検討できる目途を立てることができました。また、地域生活支援拠点事業を意識し、区内の定例カンファレンスの中で治療中断者、未治療ケースの相談を受け、3機関で連携しながら支援を行いました。結果、支援に繋げることができた世帯もありますが、情報共有する中で潜在的ニーズのある世帯が多数存在していることもわかり、引き続きの相談支援における課題だと感じております。そうしたことから精神保健分野のネットワークのみならず、ケアプラザ等の高齢福祉分野とのネットワークも構築し、協働で支援を行いました。

② 訪問・同行支援

新規利用者に関して、センターにて訪問・同行を行い福祉サービスの導入を図り、計画相談支援事業に繋げていきました。センター内で連携できる強みを活かし、すぐに自立生活アシスタント事業や計画相談支援事業に繋げている為、センター本体の訪問・同行数としては数値上昨年度よりも減少しています。人員配置が手厚くなったことにより、訪問・同行が必要なケースに関しては、スピーディーに対応可能な状況となり急な要請にも対応できる状況を構築できるようになったと思います。

③ 家族支援

本人のみならず、母子家庭の方や世帯全員が福祉の対象者というケースが多数存在しています。特にケアプラザからの相談では 8050 問題ケースも多く連携しながら積極的にケースワークを実施しました。

また、鶴見区家族会（のぞみの会）と継続して協働活動をしています。毎月の家族会定例会への職員派遣や家族による家族のための相談会の場所の提供や、家族会主催のイベントの周知・共催を行い、連携強化を深めてきました。当センター主催のイベントにも協力して頂き、良好な関係を継続しています。

④ 日常生活・福祉サービスに関する情報及びレクリエーションの提供

| | | |
|------------------------------------|------|----------------|
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 54 回 | 参加者総数 435 名 |
|------------------------------------|------|----------------|

情報提供においては、利用者がより見やすい状況にするために毎月の各生活支援センターの機関紙や福祉施設のパンフレットの配置スペースを改善しました。また、ウェブアクセシビリティに対応したホームページの改善を行いました、

自主事業では、利用者の主体性の回復に繋がること、地域交流がなされることを意識して取り組みました。今年度は、毎年恒例の自治会との夏祭りだけではなく、自治会のハロウィンイベントにも参加し、結果として年間で地域の子供たちが計 280 名近くセンターに来館されました。利用者の方々もイベントを通して地域の子供たちから「ありがとう」と言われることで自己効力感を高めることができました。そこから利用者が主体となった地域向けのイベントも開催されるようになったり、町内会からも感謝される等、継続してきた活動が実を結んだ年であったと実感しています。引き続き、地域との良好な関係を継続しながら普及啓発活動に取り組んでまいります。

⑤ 関係機関とのネットワーク

鶴見区は、多問題世帯（親が精神障害、子供が知的障害等）が多く存在していたこともあり、平成 24 年のセンター開所当時から現在の基幹相談支援センターや区役所とケースを通して連携を深めてきました。地域生活支援拠点事業においても、元々の関係性の強みを活かし円

滑な3機関連携を行ってきました。また、インフォーマルな活動として区内事例検討会（通称：うみやま会）を区役所とセンターが事務局となり隔月に一回開催し、新たなネットワーク構築の場としても活用しています。

⑥ ピア活動に関する支援

横浜市生活支援センター連絡会に紐づく有志の組織として「ピア活動を考える会」があります。会発足当初から、職員1名を派遣しピア活動に関するアンケートを実施したり、今後の課題整理をしたり、ピア活動に関して考えをまとめることに貢献しています。

センター内においては、「かさぶらんか」という自助グループが存在しています。グループも3年目を迎え、人数が増え中心メンバーに負担も増え活動低下している課題等に対して後方支援を行いました。

⑦ 人材育成について

内外の研修を通して、専門家としての質の向上に努めました。特に昨年度に引き続き、必要に応じて2名でのアウトリーチ活動が行いやすくなったことで、現場におけるOJT・パービジョンを実施できました。結果、これまで単独訪問等の中では気が付くことができなかった個々の課題を振り返ることができ、若手職員の成長が促進されたと思います。

近い将来の仲間を増やすため、実習生の受入れを拡充しました。これまで受入れしたことのない大学とも契約を交わし、実習指導に努めました。

実習性受入れ人数 13名 受け入れ期間 91日間

⑧ 嘱託医相談

| | | | |
|--------|----|----|---|
| 全体 | | 12 | 人 |
| 本人 | 男性 | 4 | 人 |
| | 女性 | 8 | 人 |
| 家族 | | 8 | 人 |
| ボランティア | | 0 | 人 |
| 自アソ契約者 | 男性 | 0 | 人 |
| | 女性 | 0 | 人 |
| その他 | | 3 | 人 |

実施回数は、46回。その他の内訳は、ケアプラザ職員1名、保育園の従業員2名となります。保育園の方は、同僚が精神疾患ではないかと考え医師相談を受けに来られた次第です。

III. 自立生活アシスタント事業

長期化していたケースに良い意味での環境変化をもたらすことも考え主任アシスタントの担当変更を実施しました。新担当が再アセスメントし、新しい関係性の構築を行いました。積極的に内外での支援会議の場を設け、様々な視点からのケースワーク展開や支援者同士の顔の見える関係づくりに貢献し、より連携しやすいチームでの支援が実現しました。結果、長期化していたケースの卒業やご本人の希望する生活に向けた新たなステージへの前進に寄り添うことができたと考えています。

| | | | | | | | | |
|------|--------|------------|--------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|
| 録者概要 | 登録者数 | 31年3月末時点 | 13 | 障害程度別人数 | 精神1級 | 精神2級 | 精神3級 | 精神手帳なし |
| | | 元年度新規登録 | 1 | A1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 元年度登録抹消 | 4 | A2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 2年4月1日現在 | 10 | B1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 未登録相談人数 | 0 | B2 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | | 他アシ事業所協力人数 | 0 | 愛の手帳なし | 4 | 6 | 1 | 2 |
| | 生活状況 | ①単身 | ②障害者のみ | ③同居家族の高齢化 | ④その他家族と同居 | ⑤単身生活移行希望 | ⑥その他 | その他の内容 |
| | | 10 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | |
| | 日中活動場所 | ①就労 | ②通所 | ③デイケア | ④在宅 | ⑤その他 | その他の内容 | |
| | | 0 | 1 | 1 | 11 | 1 | | |

IV. 自立生活援助事業

自立生活アシスタント事業から移行のケースはありませんでした。理由としては、利用者本人が訪問回数の増加を理由に拒まれたことが大半になります。利用者主体の観点から、意見を尊重し移行を無理に進めませんでした。したがって今年度の総件数は、3件。3件のうち2件は、高齢の母親との二人暮らしであり、これまで支援に結び付いておらず、いわゆる8050問題を抱えた世帯です。もう1件は、精神科病院から急な退院をされた方で地域移行支援事業等の利用もなかった単身世帯です。

自立生活アシスタント事業に比べて法的な縛りがある為、8050問題等を抱える世帯や単身生活を始めた直後のケース等で訪問頻度を高める必要がある方を中心に導入を進めていきたいと思いません。

V. 地域移行・地域定着支援事業（横浜市事業及び国事業）

R1年度は、上半期に退院サポート事業依頼が集中していた傾向にありました。横浜市外の病院からの退院サポート事業依頼や市事業から国事業に切り替え退院に至ったケースも複数あり、退院後フォローも継続しているケースがあり、一定の成果が認められました。しかし一方で、依頼ケースの中には退院支援というよりは退院が決まっており退院後サービスをつなげるため当事業を活用する

といったケース、活動途中で体調不良による中断ケースもありました。

普及啓発活動においては、港北区生活支援センターと交互に定期的な港北区にある病院への病院プログラムに乗る形で協働活動を実施しました。また、自区内の病院との連携で自立支援協議会の中の精神保健福祉部会で、看護職員向け研修にて社会資源紹介や退院支援に関するアンケートを実施しました。部会と協働して退院サポート事業および地域移行支援事業など社会資源について自区病院へ紹介できたことは大きな成果として挙げられます。引き続き、R2年度も個別支援、協働活動ともに取り組んでいきたいと思えます。

| | |
|----------|--------------|
| 支援対象者数 | 25名（内 国事業4名） |
| 退院者数 | 17名（内 国事業4名） |
| 支援継続 | 5名 |
| 退院後フォロー | 9名 |
| 支援終了 | 4名 |
| 協働活動回数 | 8回 |
| 協働活動参加者数 | 72名 |

VI. 計画相談支援事業

契約者数総数 88名 年間請求件数 465件

鶴見区は、精神障害の方への計画相談支援事業を実施している事業所が、市内の中でも少なく当センターでは、主に他の事業所が契約困難なケースを専門機関として受け入れています。ゆえに、処遇困難事例も多く、モニタリング以外の訪問が必要な状況が多々ありました。実際には、請求件数の倍以上の回数で訪問支援を実施しました。引き続き、他の事業所が対応困難なケースを積極的に受け入れ、精神障害者支援の専門機関である事業所として力を発揮していきたいと思えます。

VII. その他活動

① 鶴見区自立支援協議会

事務局としての役割を果たすだけでなく、相談部会、権利擁護部会、精神保健福祉部会の3つの部会にそれぞれ合わせて6名の職員を出席させています。特に精神保健福祉部会では、包括ケアシステムを意識して、地域丸ごと関わって頂けるように普及啓発活動に取り組みました。部会メンバーも精神保健福祉分野だけでなく、ケアプラザ包括職員、知的障害者施設職員等も増え総勢20名以上となり、部会内でチーム分けをして取り組むことが出来るようになりました。

【精神保健福祉部会の主な活動】

- ・区内精神科病院への普及啓発活動（看護職員向け研修）
第1回目：グループホームに退院した方の生活紹介（本人映像によるビデオ上映）
第2回目：病院スタッフとの地域移行支援をテーマとしたグループワーク
- ・ひきこもり支援、相談に繋がっていない方への相談支援
精神科医による講演及び部会メンバーによる寸劇

令和元年度 鶴見区精神障害者生活支援センター指定管理料収支決算書
(総括版)

自平成31年4月1日 至令和2年3月31日

(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 決算額のうち 法人負担金額 | 差 額 | 備 考 |
|-------------------|------------|------------|------------------|--------------|-----|
| I 収入の部 | | | | | |
| 1 指定管理料収入(当初) | 59,758,000 | 59,758,000 | | 0 | |
| 2 指定管理料収入(変更) | 4,720,000 | 4,720,000 | | 0 | |
| 3 法人負担金 | | 11,015,140 | | ▲ 11,015,140 | |
| 4 相談支援事業に要した交通費収入 | | | | 0 | |
| 収入合計 | 64,478,000 | 75,493,140 | | ▲ 11,015,140 | |

| II 支出の部 | | | | | | |
|----------------|------------|------------|------------|--------------|-------------|--|
| 戻入精算 | 1 人件費 | 56,329,000 | 61,974,929 | 5,645,929 | ▲ 5,645,929 | |
| | 所長 | | | | 312,460 | |
| | 常勤職員 | | | | ▲ 351,372 | |
| | 非常勤職員 | 11,200,000 | 16,136,138 | 4,936,089 | ▲ 4,936,138 | |
| | アルバイト | 4,496,000 | 5,771,653 | 0 | ▲ 1,275,653 | |
| | 調理アルバイト | 3,120,000 | 2,034,324 | 0 | 1,085,676 | |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 927,360 | 0 | 40,640 | |
| | 法定福利費 | 7,305,000 | 8,044,288 | 500,118 | ▲ 739,288 | |
| | 退職金給与引当金 | 1,130,000 | 934,500 | ▲ 36,900 | 195,500 | |
| | 福利厚生費 | 190,000 | 151,754 | ▲ 16,360 | 38,246 | |
| | 労務厚生費 | 50,000 | 66,000 | 4,000 | ▲ 16,000 | |
| | 2 施設管理費 | 4,340,000 | 6,629,299 | 2,289,299 | ▲ 2,289,299 | |
| 光熱水費 | 1,500,000 | 1,390,824 | | 109,176 | | |
| 庁舎管理費 | 2,700,000 | 4,920,769 | 2,289,299 | ▲ 2,220,769 | | |
| 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | | 0 | | |
| 利用者負担金充当金 | ▲ 60,000 | 117,706 | | ▲ 177,706 | | |
| 3 運営費 | 3,434,000 | 6,281,613 | 2,847,613 | ▲ 2,847,613 | | |
| 旅費 | 550,000 | 2,329,363 | 2,030,512 | ▲ 1,779,363 | 職員通勤交通費含む | |
| 消耗品費 | 635,000 | 715,132 | ▲ 10,000 | ▲ 80,132 | | |
| 印刷製本費 | 109,000 | 127,547 | 21,351 | ▲ 18,547 | | |
| 修繕費 | 100,000 | 16,463 | 0 | 83,537 | | |
| 通信運搬費 | 570,000 | 722,854 | 176,596 | ▲ 152,854 | | |
| 賃借料 | 375,000 | 403,524 | 0 | ▲ 28,524 | | |
| 備品等購入費 | 400,000 | 1,051,672 | 600,000 | ▲ 651,672 | PC入れ替えのため | |
| 保険料 | 100,000 | 138,740 | 27,748 | ▲ 38,740 | | |
| 雑費 | 595,000 | 776,318 | 1,406 | ▲ 181,318 | | |
| 4 本部繰入金 | 375,000 | 607,299 | 232,299 | ▲ 232,299 | | |
| 支出合計 | 64,478,000 | 75,493,140 | 11,015,140 | ▲ 11,015,140 | | |

| III 戻入の部 | | | | | |
|-----------------|--|---|--|--|--|
| 人件費戻入精算分 | | 0 | | | |
| 戻入合計 | | 0 | | | |

令和2年度 事業報告

社会福祉法人 横浜市社会事業協会
横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

令和2年度 事業報告書

令和2年度は、コロナ感染症対策を講じながらの運営でスタートしました。その影響を受け、緊急事態宣言中の閉館や短縮開館等、これまでに体験したことのない運営を余儀なくされました。センターを頻回に利用されたいご利用者への影響も大きく、各種サービス提供においても人数等の利用制限をせざるを得ない状況となりました。また、定期的に行っていたセンター主催イベントや地域交流行事の実施も困難となり、センターでの活動において生活の中に潤いを保たれていたご利用者にとっては精神衛生を維持するのが困難な年度であったと思われます。そうした中で、どのようにこの状況を付き合いながらサービス低下を最小限にするかを模索しながら運営してまいりました。横浜市退院サポート事業においては、医療機関の制限もあり特に事業展開が困難となりましたが、詳しくは以下に令和2年度の事業報告として、各事業毎に報告をさせていただきます。

【施設概要】

| | | | | | | | |
|--------|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 名称 | 社会福祉法人横浜市社会事業協会 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター | | | | | | |
| 所在地 | 〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 28-4 ハーモニーとよおか 4階 | | | | | | |
| 電話 | 045-576-3172 (一般相談回線) | | | | | | |
| | 045-576-3174 (申込専用及び緊急対応回線) | | | | | | |
| | 045-576-3170 (自立生活アシスタント事業専用回線) | | | | | | |
| | 045-576-3171 (横浜市退院サポート事業専用回線) | | | | | | |
| FAX | 045-576-3172 | | | | | | |
| E mail | tsurumi-s.c@ysjk.jp | | | | | | |

I. 令和2年度 運営実績報告

① 登録者数及び来館者数

開所日数：327日

| | | | | | | | |
|------|----------------------------|----|------|---|----|------|---|
| 登録者数 | 令和1年度新規登録 | 男性 | 30 | 名 | 全体 | 59 | 名 |
| | | 女性 | 29 | 名 | | | |
| | 令和2年度新規登録 (登録者総計 1028名) | 男性 | 28 | 名 | 全体 | 60 | 名 |
| | | 女性 | 32 | 名 | | | |
| 来館者数 | 本人 | 男性 | 3193 | 名 | 全体 | 4647 | 名 |
| | | 女性 | 1754 | 名 | | | |
| | 家族 | 全体 | 537 | 名 | 全体 | 612 | 名 |
| | ボランティア・その他関係機関等 | 全体 | 75 | 名 | | | |
| | 全体合計 | | 5559 | 名 | | | |

コロナの影響を受け、緊急事態宣言下での閉館及び来館自粛の声掛けの影響もあり、来館者数は例年の半分以下という結果となりました。傾向としては、不要不急の外出を徹底的に避ける方、全く気にし

ない方の2極化が見られました。ただ、これまで来館されなかった方4名の常時利用も増えました。コロナの影響で行き場所を失いセンター利用を行うようになったようです。

② 各種サービス利用状況

| | | 延べ人数 | 全体延べ人数 |
|-------------|----|--------|--------|
| 夕食 | 男性 | 1517 人 | 2418 人 |
| | 女性 | 901 人 | |
| 入浴 | 男性 | 362 人 | 565 人 |
| | 女性 | 46 人 | |
| 洗濯 | 男性 | 259 人 | 500 人 |
| | 女性 | 241 人 | |
| インター ネット | 男性 | 0 人 | 0 人 |
| | 女性 | 0 人 | |

洗濯サービスの利用は、延べ人数150人以上増えました。コロナの影響で家にいる時間が増えた方が、センターで洗濯するようになりました。それ以外は、例年の半分程度の利用人数という結果となりました。インターネットサービスについては、コロナ感染対策の一環として、1台のPCを複数人が触れることを避けるため中止とし、インターネット情報が必要な方には職員が調べ情報提供を行いました。

II. 地域活動支援センター事業 支援状況報告

【援助方法】

| | | | | | | |
|-----------|----|------|---|----|------|---|
| 電話 | 男性 | 2668 | 件 | 全体 | 5759 | 件 |
| | 女性 | 3091 | 件 | | | |
| 面接 | 男性 | 253 | 件 | 全体 | 479 | 件 |
| | 女性 | 226 | 件 | | | |
| フリースペース対応 | 男性 | 338 | 件 | 全体 | 527 | 件 |
| | 女性 | 189 | 件 | | | |
| 訪問 | 男性 | 66 | 件 | 全体 | 164 | 件 |
| | 女性 | 98 | 件 | | | |
| 同行 | 男性 | 37 | 件 | 全体 | 107 | 件 |
| | 女性 | 70 | 件 | | | |
| その他 | 男性 | 8 | 件 | 全体 | 115 | 件 |
| | 女性 | 107 | 件 | | | |

来館できない為、電話による相談が2000件の増という結果となりました。

【相談支援内訳】

| | | | | | | |
|------------|----|------|---|----|------|---|
| 生活(衣食住) | 男性 | 2555 | 件 | 全体 | 5317 | 件 |
| | 女性 | 2762 | 件 | | | |
| 精神的不安定混乱 | 男性 | 488 | 件 | 全体 | 1057 | 件 |
| | 女性 | 569 | 件 | | | |
| 家族関係 | 男性 | 246 | 件 | 全体 | 730 | 件 |
| | 女性 | 484 | 件 | | | |
| 対人関係 | 男性 | 284 | 件 | 全体 | 526 | 件 |
| | 女性 | 242 | 件 | | | |
| 金銭管理・経済 | 男性 | 391 | 件 | 全体 | 648 | 件 |
| | 女性 | 257 | 件 | | | |
| 就労 | 男性 | 605 | 件 | 全体 | 1070 | 件 |
| | 女性 | 465 | 件 | | | |
| 制度・サービス | 男性 | 1621 | 件 | 全体 | 3694 | 件 |
| | 女性 | 2073 | 件 | | | |
| センター利用案内 | 男性 | 168 | 件 | 全体 | 378 | 件 |
| | 女性 | 210 | 件 | | | |
| 日中活動(余暇含む) | 男性 | 178 | 件 | 全体 | 318 | 件 |
| | 女性 | 140 | 件 | | | |
| 医療・健康 | 男性 | 870 | 件 | 全体 | 1914 | 件 |
| | 女性 | 1044 | 件 | | | |
| 入院・退院支援 | 男性 | 16 | 件 | 全体 | 35 | 件 |
| | 女性 | 19 | 件 | | | |
| その他 | 男性 | 368 | 件 | 全体 | 716 | 件 |
| | 女性 | 348 | 件 | | | |
| 複数対応 | | 43 | 回 | | 43 | 件 |
| ケア会議 | | 56 | 回 | | 56 | 件 |
| 緊急対応 | | 9 | 回 | | 9 | 件 |

① 相談支援

第1回目の緊急事態宣言下では、必要な方への訪問支援は中止せずに継続をしました。また、宣言解除後には、来館されなくなった方への電話・訪問による状況確認を行いました。相談内容としては、コロナへの不安、変化した日常生活上の悩み、解雇や面接の中止による就職活動困難によるストレス、同じ時間を共有することが多くなった家族関係の問題等の内容が増えた印象です。

② 訪問・同行支援

コロナ対策を行いながら、引き続き必要な方への訪問・同行は継続しました。急を要さない場合は、訪問はせずに電話による対応に努めました。

③ 家族支援

8050 問題ケースに対して、ご本人及びご家族に対して支援を行ったり、ケアプラザにて家族支援の講演会やグループワークを通して、精神障害者の家族の心理状況に関する普及啓発活動等を行いました。また、鶴見区家族会「のぞみの会」の定例会には引き続き出席し、互恵関係が継続しています。

④ 日常生活・福祉サービスに関する情報及びレクリエーションの提供

| | | |
|------------------------------------|----|--------------|
| 生活支援センタープログラム(生活情報提供・イベント実施・自主事業等) | 9回 | 参加者総数 62名 |
|------------------------------------|----|--------------|

コロナ対策の為、上半期は殆ど実施できませんでした。下半期に入り、人数制限をかけたイベントを開催しました。感染対策を徹底しながら実施可能なイベントの構築が、次年度の課題です。

⑤ 関係機関とのネットワーク

ZOOMを用いたオンライン会議を上半期から取り入れ、情報共有等を行ったり自立支援協議会の協議が停滞しないよう3機関で工夫しながら取り組みました。

⑥ 人材育成について

オンライン研修には、できる限り参加をしました。また、実習指導者養成講座には、3名派遣し、未来の人材育成を行える体制づくりを行いました。

今年度の特徴としては、標準化になったこともあり同法人運営である保土ヶ谷区生活支援センターと専門家として資質向上を目的に10月から毎月1回(土曜日)外部講師を招聘し、合同研修を行いました。これまで、同法人でありながら運営時間が異なる為できなかった情報共有や意見交換を行い、互いの支援に関してブラッシュアップできる機会となりました。

コロナ感染症対策を実施している中ではありましたが、実習生2名を受け入れています。

実習性受入れ人数 2名 受け入れ期間 24日間

⑦ 嘱託医相談

| | | | |
|----|----|---|---|
| 全体 | | | 人 |
| 本人 | 男性 | 5 | 人 |
| | 女性 | 5 | 人 |
| 家族 | | 4 | 人 |

実施回数は、70回となります。予約のない場合は、職員が嘱託医の先生にケース相談できる時間として活用致しました。結果として、嘱託医の先生方の視点も加わりアセスメントの強化に繋がり本人理解を深めることができました。

III. 自立生活アシスタント事業

感染症拡大の影響の中、新規ケースは6件ありましたが年間の契約者数は目標には及びませんでした。ただ、訪問・同行等の支援については感染対策や必要性を吟味し、支援が滞らないように努めてきました。特に前半期は初回の緊急事態宣言期間中、必要に応じて電話相談への切り替え、感染対策を徹底した訪問をする等、緊急性とのバランスを考え柔軟に対応していけるよう努めてきました。下半期においては、諸々の活動に対して自粛ムードも流れる中、それぞれの目標実現に向けた新たな展開を可能な限りサポートしてきました。次年度は今年度の反省も活かし、契約者数の増加と、安全と質のバランスを備えたサービス提供をしていきたいと考えております。

| | | | | | | | | |
|--------|------------|------------|---------------|---------------|---------------|----------|--------|------------|
| 登録者概要 | 2年3月末時点 | | 10 | 障害程度別 人数 | 精神1級 | 精神2級 | 精神3級 | 精神手帳 なし |
| | 2年度新規登録 | | 6 | A1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 2年度登録抹消 | | 3 | A2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 3年4月1日現在 | | 13 | B1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 未登録相談人数 | | 3 | B2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 他アシ事業所協力人数 | | 0 | 愛の手帳 なし | 4 | 7 | 3 | 2 |
| 生活状況 | ①単身 | ②障害者の み | ③同居家族 の高齢化 | ④その他家族 と同居 | ⑤単身生活 移行希望 | ⑥その 他 | その他の内容 | |
| | 9 | 0 | 5 | 0 | 2 | 0 | | |
| 日中活動場所 | ①就労 | ②通所 | ③デイケ ア | ④在宅 | ⑤その 他 | その他の内容 | | |
| | 1 | 4 | 1 | 9 | 1 | | | |

IV. 自立生活援助事業

4ケース援助実施しました。2ケースは、高齢家族と同居のいわゆる8050問題、2ケースは単身世帯です。4ケース中、1ケースは途中で援助終了となりその他1ケースは、残念ながら病死されました。その為、年度末の時点では、2ケース継続中という形ですが、どちらも終了となっております。訪問回数に縛りがある為、ご本人のニーズを合致しない課題が自立生活援助においては継続している状況です。

V. 地域移行・地域定着支援事業（横浜市事業及び国事業）

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により上半期は病院から相談・依頼は少なく、下半期に集中した傾向にありました。特に上半期は緊急事態宣言の影響により病院側が本人への面会や外出を制限していたこともあり病院への訪問や外出同行が難しく、支援として動くことができない状況がありました。緊急事態宣言解除後から徐々に退院に向けた準備としての訪問や外出が可能になりましたが、感染予防策をとりながらの支援となりました。

令和1年度から継続して退院後フォローを行っていたケースは計画相談支援事業へ引継ぎをし、終了に繋げる等ご本人の状況に合わせた対応ができました。

また、今年度依頼されたケースの中には生活訓練施設のチャレンジ事業の利用を目的とした退院サポート事業を目的とした依頼ではないケース、長年の未治療により精神症状が固定化されてしまったこと退院先の選定に困難さのあるケースもありました。

普及啓発活動では港北区生活支援センターと交互に港北区内の精神科病院に入院されている患者様向けに社会資源の紹介をする協働活動を病院のプログラムの時間で実施しました。その際に使用する資料について、港北区生活支援センターの担当者と協力して見直しを実施し、文字を少なくし、写真を増やしました。より社会資源が分かりやすく、イメージがしやすい資料になりました。鶴見区内の精神科病院へは令和1年度は鶴見区の自立支援協議会の中の精神保健福祉部会で、区内の精神科病院の職員向けの研修を開催しましたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度は研修を行うことが出来ませんでした。ですが、区民に向けて精神保健福祉部会と何か、退院支援としてどのような活動をしているかについて紹介するパネルを作成し、区役所のエントランスに設置しました。

令和3年度も引き続き、個別支援、協働活動に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

| | 横浜市 | 国 | |
|-------------------------|--------------------|---------------|---------------|
| | 横浜市退院サポート事業 利用者 | 地域移行支援 利用者 | 地域定着支援 利用者 |
| 支援対象者数 | 20名 (内 国事業併用2名) | 3名 | 3名 |
| 支援継続 | 9名 (内、国事業併用1名) | 1名 | |
| 退院者数 | 3名 (内 国事業併用1名) | 1名 | |
| 退院後フォロー者数 (R2.4.1時点) | 8名 (内、国事業併用3名) | | 3名 |
| 支援終了 | 11名 | | |
| 協働活動回数 | 6回 | | |
| 協働活動参加者数 | 36名 | | |

VI. 計画相談支援事業

契約者数総数 105名 年間請求件数 710件

鶴見区は、精神障害の方への計画相談支援事業を実施している事業所が、市内の中でも少なく当センターでは、主に他の事業所が契約困難なケースを専門機関として受け入れています。ゆえに、処遇困難事例も多く、モニタリング以外の訪問が必要な状況が多々ありました。実際には、請求件数の倍以上の回数で訪問支援を実施しました。引き続き、他の事業所が対応困難なケースを積極的に受け入れ、精神障害者支援の専門機関である事業所として力を発揮していきたいと思えます。

VII. その他活動

① 鶴見区自立支援協議会

事務局としての役割を果たすだけでなく、相談部会、権利擁護部会、精神保健福祉部会の3つの部会にそれぞれ合わせて6名の職員を出席させています。特に精神保健福祉部会では、包括ケアシステムを意識して、地域丸ごと関わって頂けるように普及啓発活動に取り組みました。部会メンバーも精神保健福祉分野だけではなく、ケアプラザ包括職員、知的障害者施設職員等も増え総勢20名以上となり、部会内でチーム分けをして取り組むことが出来るようになりました。

【精神保健福祉部会の主な活動】

- ・コロナ状況下でも行える普及啓発活動（精神保健福祉に関する情報のパネル展示）実施。

令和2年度 鶴見区精神障害者生活支援センター指定管理料収支決算書
(総括版)

自令和2年4月1日 至令和3年3月31日

(単位:円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 決算額のうち 法人負担金額 | 差 額 | 備 考 |
|-------------------|------------|------------|------------------|-----|-----|
| I 収入の部 | | | | | |
| 1 指定管理料収入(当初) | 70,892,000 | 70,892,000 | | 0 | |
| 2 指定管理料収入(変更) | | | | 0 | |
| 3 法人負担金 | | 0 | | 0 | |
| 4 相談支援事業に要した交通費収入 | | | | 0 | |
| 収入合計 | 70,892,000 | 70,892,000 | | 0 | |

| | | | | | |
|----------------|------------|------------|------------|-----------|-------------|
| II 支出の部 | | | | | |
| 戻入精算 | 1 人件費 | 61,871,000 | 59,879,868 | 0 | 1,991,132 |
| | 所長 | | | | ▲ 177,905 |
| | 常勤職員 | | | | 5,146,003 |
| | 非常勤職員 | 11,800,000 | 15,905,827 | | ▲ 4,105,827 |
| | アルバイト | 4,600,000 | 3,033,279 | | 1,566,721 |
| | 調理アルバイト | 2,800,000 | 2,187,561 | | 612,439 |
| | 嘱託医賃金 | 968,000 | 947,520 | | 20,480 |
| | 法定福利費 | 6,540,000 | 7,331,518 | | ▲ 791,518 |
| | 退職金給与引当金 | 1,550,000 | 1,764,480 | | ▲ 214,480 |
| | 福利厚生費 | 170,000 | 122,230 | | 47,770 |
| | 労務厚生費 | 63,000 | 175,551 | | ▲ 112,551 |
| 2 施設管理費 | 4,840,000 | 3,873,147 | 0 | 966,853 | |
| 光熱水費 | 2,000,000 | 1,111,426 | | 888,574 | |
| 庁舎管理費 | 2,700,000 | 2,654,571 | | 45,429 | |
| 修繕積立金 | 200,000 | 200,000 | | 0 | |
| 利用者負担金充当金 | ▲ 60,000 | ▲ 92,850 | | 32,850 | |
| 3 運営費 | 3,810,000 | 4,702,817 | 0 | ▲ 892,817 | |
| 旅費 | 560,000 | 1,094,873 | | ▲ 534,873 | |
| 消耗品費 | 800,000 | 862,827 | | ▲ 62,827 | |
| 印刷製本費 | 165,000 | 118,665 | | 46,335 | |
| 修繕費 | 200,000 | 699,152 | | ▲ 499,152 | |
| 通信運搬費 | 900,000 | 716,594 | | 183,406 | |
| 賃借料 | 375,000 | 403,524 | | ▲ 28,524 | |
| 備品等購入費 | 400,000 | 342,479 | | 57,521 | |
| 保険料 | 210,000 | 133,894 | | 76,106 | |
| 雑費 | 200,000 | 330,809 | | ▲ 130,809 | |
| 4 本部繰入金 | 371,000 | 827,664 | 456,664 | ▲ 456,664 | |
| 支出合計 | 70,892,000 | 69,283,496 | 456,664 | 1,608,504 | |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----------|--|--|--|
| III 戻入の部 | | | | | |
| 人件費戻入精算分 | | 1,991,132 | | | |
| 戻入合計 | | 1,991,132 | | | |